Ⅳ　医学部看護学科

1　教育・研究の理念・目標等

1. 教育・研究の理念と目標

近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し，多様な社会的要請に応えるため，21 世紀の医療に向けて，豊かな感性と人間性を備え，日々進歩する知識や技術を修得・発展させる能力や，地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる資質の高い看護職を育成することを目的に以下のディプロマポリシーを設定している。

① 人の尊厳と，生命を尊重する姿勢に基づいた倫理的配慮ができる能力
② 人間・環境・健康・看護に興味・関心を持ち，多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴を理解する能力
③ 看護を必要としている個人・家族・地域社会に対して，対象に応じた看護が実践できる能力
④ 変化する保健・医療・福祉システムの中で，チーム医療を担う一員として，他職種の役割を理解し，協働的関係を築き調整する能力
⑤ 看護専門職として，将来的な展望を持ち，自らを振り返りながら研鑽する態度や，自律的に行動する能力

2. 教育・研究の活性化と充実の経過

急速な少子・高齢化による人口構成の変化，疾病構造の変化，また人々の健康への関心の高まりなどにより，医療を取り巻く社会環境は著しく変貌してきている。慢性疾患や老化による障害を抱えて生活する人々が増加するにつれ，療養生活の質，生命の尊厳の本質が改めて問い直されるようになった。このように拡大し複雑化する社会的ニーズに応えていける看護者を育成するには，豊かな感性と深い倫理観に裏付けられた人間性，専門的知識・技術と実践力を備え，問題解決能力，また，国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力を身につけることが課題となる。

このため 1 年次生から医療・看護への関心を高めるため，初年次セミナーや初期体験実習および生命機能学に関する科目，また，医学概論は医学科学生との合同授業を開講している。また，専門教育の基盤となる教養教育は 1，2 年次に全学部生を対象とした全学共通教育を受講する。

問題解決能力，主体的に学習する能力育成のために，アクティブラーニングを積極的に取り入れている。平成 24 年度からカリキュラムを改正し保健師課程を選択制とし，看護師課程の卒業要件単位数を 133 単位から 127 単位に変更した。また，英語教育の充実を図り 1・2 年次に教養科目として履修する英語に引き続き 3・4 年次に基礎科目として医療英語 3 科目（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）各 1 単位 30 時間を配置し、海外短期研修を取り入れた。さらに平成 28 年度よりこれにより，海外短期研修修了者には，医療英語Ⅲの単位認定ができるようにし，英語教育を一層系統的に行えるようにした。

3. 教育・研究の将来構想

(1) 基本理念

少子高齢社会において、医療・福祉の状況は，近年大きく変化している。地域医療構想に基づく医療供給体制の構築と地域包括ケアシステムの構築により、地域におけるヘルスプロモーションや予防も含め、看護の役割や活動の場所は多様化複雑化し、社会の一員として、医療職の一員として期待される役割も幅広いものになってきている。看護職には、様々な場面で人々の心身の状況を観察・判断し状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が求められている。さらに、患者修身の医療実現に向けて、チーム医療や多職種連携の一員としての役割や、専門性を発揮すること、医療安全への対応も求められている。

医療における看護の役割は，豊かな感性と人間性を備えた資質の高い看護職の育成が不可欠となる。

これらの社会的要請に応えるため，日々進歩する医療の知識・技術に対応し，さらに発展させる能力を持った人材，地域の実情に即したきめ細やかな保健医療活動の中心的役割が果たせる人材を養成するとともに，看護教育及び研究・研修の拠点となり，生涯学習に貢献することのできる，社会に開かれた看護学科を目指すことを基本理念とする。

(2) 教育体制

現代の医療は，治療水準の向上とともに，あらゆる健康レベルの人々を対象とした，保健・医療・福祉が

連携した良質できめ細やかな援助サービスが要請される。医療における看護の責任は今後ますます重く，社会の要請に応えるためにディプロマポリシーを踏まえた上で，将来的に次のような内容を担える人材の育成と学問的基盤の確立を目標とする。

① 全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材
② 高度医療の一環を担い得る資質の高い人材
③ 保健・医療活動に指導的役割を果たせる人材
④ 看護学における学問的基盤を確立できる人材
⑤ 広い視野を持ち，国内外で活躍できる人材

医学部医学科および医学部附属病院との緊密な協力体制を築き，「健康」を視座にすえた統合カリキュラムで育った問題解決能力や判断能力，応用能力のある人材の育成により，地域で保健医療福祉に係わる人々とともにケアチームを作り，生涯学習を続けていける体制整備を目指す。

(3) 研究体制

看護学の研究は，関連諸科学との連携，特に保健・医療分野との共同研究は必須である。臨床，地域における看護職との研究は看護の研究の本質的意義を有するものであり，各講座，分野の特色の中で推進していく。看護の対象や役割の拡大により，健康支援や生活への援助から，教育・福祉・経済・情報などと連携していく必要性が高まっている。総合大学のメリットを活かし，学内外において関連する学問分野，他の専門職との連携を密にすることで学際的かつ効率的な共同研究を推進していく。また，大学院修士課程（看護学専攻）ではより高い専門性を追及した教育・研究の充実を図っている。

2 教育活動

1. 学生の受入れ

(1) 学生募集の方法

① 学生募集要項及び入学者選抜に関する要項については，学務部から全学一括で県下高等学校を中心に郵送配布するとともに，希望者に対しては学務係から直接又は郵送で配布している。
② 看護学科紹介パンフレット「岐阜大学医学部看護学科案内」を作成し，大学紹介（オープンキャンパス，プチ･オープンキャンパス）を参加者に配布している。また，パンフレット希望者には郵送配布の対応を行っている。
③ オープンキャンパス，プチ･オープンキャンパスにおいて，看護学科長による看護学科の概要説明並びに各講座が企画する模擬実習等を体験するだけでなく，在学生による相談会や医学部看護学科教務厚生委員と広報・情報処理委員による進学相談を行っている。参加者からのアンケート内容は，広報・情報処理委員会における次年度以降の計画立案の参考としている。なお 28 年度から男子高校生を対象に，男子卒業生と男子在学生と交流会を実施している。
④ 看護協会主催や私塾主催の入試説明会への教員派遣や，高等学校への「出前講義」，高校生への探究活動協力，看護学科への高校訪問の受け入れについて積極的に取り組んでいる。

(2) 入学者選抜の方法と方針

前期日程および後期日程の一般入試に加え，センター試験を課さない推薦入学Ⅰ特別入試と社会人特別入試を設定している。また 3 年次編入学試験も実施している。入学試験の定員数は，それぞれ次表のように定めている。

試験	募集人員
推薦入学Ⅰ特別入試	10
社会人特別入試	3
一般入試（前期日程）	47
一般入試（後期日程）	20
3 年次編入学試験	10

看護学科では，次のアドミッションポリシーを定めて公開している。

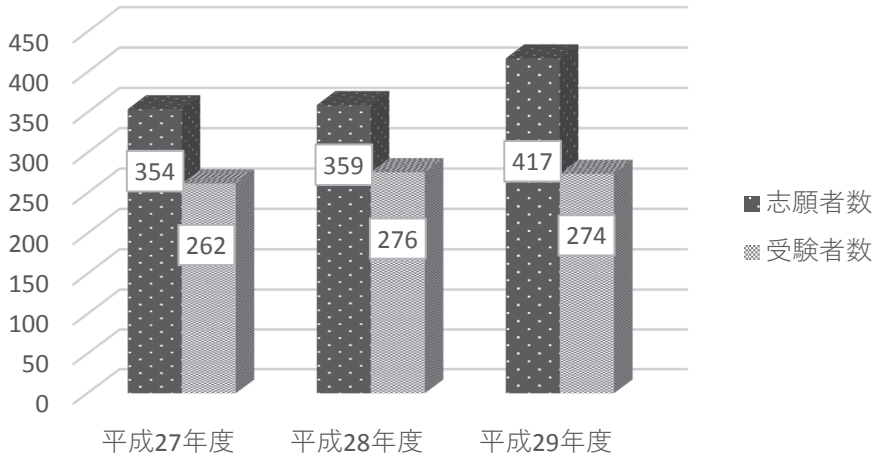
【教育目的】
看護学科は，看護学をはじめ保健・医療・福祉の各分野に貢献できる人間性豊かで倫理観に富む資質の高い看護の専門職を養成するとともに，看護学の教育研究の推進も目指します。
【求める学生像】
人を愛し生命を尊び，全ての人々の健康の向上に寄与する看護職を育成するために以下のような学生を求めています。
①看護への関心があり，看護学の修得に必要，かつ，十分な基礎的学力を有する人
②様々な現象に対して，あらゆる角度から観て考え，真実を知ろうという科学的探求心に富み，自己学習意欲が旺盛である人
③他者の意見を傾聴し，その気持ちを理解できるように努め，自己の意見を表現できる能力を持っている人
④自己の心身の健康に留意し行動できる力を持っている人

前期日程は基礎的学力により合否判定を行い，後期日程では基礎学力に加えて面接による人物判定を取り入れて合否判定を行っている。推薦入学Ⅰ特別入試と社会人特別入試では小論文による英語読解力と国語力および面接による人物判定を取り入れている。また，3 年次編入学試験では国家試験合格レベルの医学・看護に関する基礎専門能力と面接による人物評価によって合否判定を行っていたが，継続して合格者が出ないことなど多角的に検討し，平成 30 年度から募集停止を決定した。

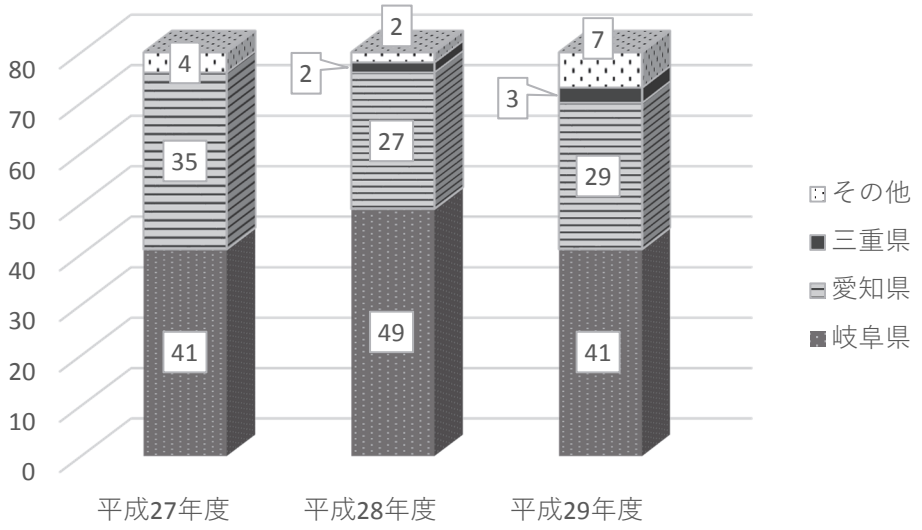
(3) 学生の受入れ状況

学生定員充足状況：平成 27 年度から 29 年度までの 3 年間の入学（志願者・入学者）に関する状況は次表のとおりである。

区分		志願者数	受験者数	入学者	県別内訳			
					岐阜県	愛知県	三重県	その他
平成 27 年度	男	20	17	2	2	0	0	0
	女	334	245	78	38	32	1	7
	計	354	262	80	41	35	0	4
平成 28 年度	男	20	9	2	2	0	0	0
	女	339	267	78	47	27	2	2
	計	359	276	80	49	27	2	2
平成 29 年度	男	22	16	3	0	3	0	0
	女	395	258	77	41	26	3	7
	計	417	274	80	41	29	3	7



年度別志願者・受験者状況



入学者出身県別内訳

(4) 編入学制度と実態

看護学科では，すでに看護に関する学科あるいは課程において学習してきた学生を対象に，編入学（第 3 年次）による学生の受け入れ制度を設けている。

平成 27 年度～平成 29 年度の編入学（志願者・入学者）に関する状況は次表のとおりである。

区分		志願者数	受験者数	入学者
平成 27 年度	男	2	1	0
	女	9	7	0
	計	11	8	0
平成 28 年度	男	1	1	0
	女	3	2	0
	計	4	3	0
平成 29 年度	男	5	4	0
	女	2	1	0
	計	7	5	0

(5) 研究生の受入れと実態

学則において研究生の受け入れ制度を設けているが，平成 27～29 年度に研究生の受け入れは無かった。

2. カリキュラム

看護職の基礎的能力と，科学的思考に裏づけられた看護実践能力，保健・医療・福祉全般にわたる広い見識，そして幅広い教養と豊かな人間性を養うことを目的として，教養教育と専門教育（基礎科目と専門科目）を開講している。ただし 29 年度は、31 年度に向けてカリキュラムの見直しを行っているところである。

(1) カリキュラムの特徴

① 教養科目は，全学共通教育科目として開講
初年次セミナー，人文科学，社会科学，自然科学，複合領域，英語，第 2 外国語，スポーツ・健康科学及び自由選択科目が開講され，必要単位を考慮しながら，これらの科目から自分の学びたい科目を選択する。

② 医学部との合同講義（医学概論）
全人的医療や医療職種の役割などに関して学ぶ。

③ 実習や体験に基づいた学習の重視

専門科目は，講義だけでなく体験を踏まえた学習を実施する。

(2) カリキュラムの構築

① 看護実践能力の育成を目指してカリキュラムの構築

・平成 24 年度にカリキュラム改正を行い、これを機に従来からの助産師課程の選択制に加え、保健師課程も選択制とした。保健師課程が選抜制になったことで看護師教育の中で教授内容の不足点や、助産師課程の過密カリキュラム等の問題点が明らかになった。平成 27 年度には，学科全体で日本看護系大学協議会が示している「学士課程に必要な看護実践能力の卒業到達目標」と教授内容を照らし合わせ，ディプロマポリシーの見直しと達成すべき水準を明確にし、質的向上を目指してきた。

・平成 29 年 10 月に「看護学教育モデル・コア・カリキュラム現在平成 31 年度カリキュラム」が示され、さらに 29 年 12 月に「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標（案）」が示された。これらに基づき、看護師の基本的な資質・能力の育成や多職種との連携協働に向けてより充実した看護教育を目指し、看護学科の教授内容と順序性、各学年の到達目標やその積み上げのうえでディプロマポリシーに見合った学生の教育について 30 年度申請に向けてカリキュラムの見直しをしているところである。

・現在、1 年次生から 4 年次生までの間に，看護学実習（初期体験実習，基礎看護学実習，急性期看護学実習，慢性期看護学実習，老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ，精神看護学実習，小児看護学実習，母性看護学実習，在宅看護学実習，統合実習）を通じて看護の計画的な展開能力，特定の健康問題をもつ対象への実践能力，変化する保健・医療・福祉システムの中で、ケアチーム医療を担う一員として活躍できる基礎的な能力が修得できるように実習を配置している。特に統合実習においてはその位置づけを明確にし，27 年度からは 3 年次から 4 年次への配置を変更し、全分野の教員が担当し、学生に希望分野を選択できるように変更し実習を主体的に実習が組み立てられる環境を整え質的な充実を図っている。

・英語教育では，教養科目としての 4 単位 120 時間，さらに，専門科目として医療英語を 3 単位 90 時間積み上げ，28 年度から短期海外研修を取り入れ 4 年一環の英語教育プログラムとして現在検討を継続している。

② 国家試験受験資格が取得できるカリキュラム構築

1 年次生から 4 年次生までの間に，共通教育及び専門教育の各教科目を学習し，4 年次学年末に実施される看護師国家試験受験要件を満たす充分な科目と単位数に配慮したカリキュラムを構築してきた。

保健師及び助産師に関しては，平成 24 年度以降入学生から教育課程を選択制として受験要件を満たすカリキュラムを構築している。現在両課程とも 30 年度申請に向けてカリキュラムの見直しを進めている。

③ アクティブラーニングを取り入れたカリキュラム及び授業内容の構築

入学当初から社会や医療の変化に伴い生起する多様で複雑な健康問題に対して看護職として自ら課題を探求，その課題の解決に向けて学習できる能力や保健・医療・福祉等の専門職との連携協働できる能力の獲得を目指してアクティブラーニングを取り入れたカリキュラム及び授業内容の構築をしている。また，e-learning システムによって，開講科目の予習，復習に活用し，講義では触れられなかった部分についても学習の機会を提供し，自己学習時間の確保につなげ，主体性を育む授業を展開してきた。

④ 看護学専門科目の一部として発展科目を位置づけ，幅広い視野をもった看護実践能力育成に向けて学習する機会を設けること，さらに，科学的思考の修得と将来への発展を期待して，研究方法の講義及び卒業研究の実際を通して，基礎的能力の修得を行うように位置づけている。

⑤ 岐阜大学附属病院をはじめとする実習病院の看護師の本学科授業への参画

大学教員と病院看護師の相互理解と相互の教育の場として、多くの機会を設けている。

(3) 課題と展望

岐阜大学が育成すべき基盤的能力や前述の看護学教育モデル・コア・カリキュラム、看護学士課程教育

におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標、そして本学科におけるディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを基盤として，地域に貢献する人材の育成を目ざし，教育内容と学修支援を総合的に計画し，平成 30 年度に申請，平成 31 年 4 月の施行に向けて検討していく。看護学専攻においてもディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを基盤として，高度な専門職業人の育成や次世代につながる実践的な研究の支援を行う。

将来的な看護学教育認証評価機構（仮）の認証評価の受審に向けて，看護学科のディプロマポリシーとそれに基づく教育内容との整合性を検証していく必要がある。

3. 教育方針

(1) 教育改革

3 年次編入学、養護教諭課程の存続について長きにわたり検討した結果、廃止を決定した。

英語教育では，教養科目としての 4 単位，さらに，専門科目として医療英語を 3 単位の積み上げ，28 年度から短期海外研修を取り入れ 4 年一環の英語教育プログラムの充実を図っている。

看護学教育については，平成 29 年 10 月に文部科学省から，大学の学士課程における看護師養成教育の充実と社会に対する質の保証のため看護学教育モデル・コア・カリキュラムの概要が示された。岐阜大学看護学科においては，ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを基盤として，地域に貢献する人材の育成を目ざし，教育内容と学修支援を総合的に計画し，平成 30 年度に申請，平成 31 年 4 月の施行に向けて検討していく。看護学専攻においてもディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを基盤として，高度な専門職業人の育成や次世代につながる実践的な研究の支援を行う。

(2) 全学共通教育

大学では，専門について深く学ぶとともに，教養を学ぶことが必要である。この目的を達成するため，4 年一貫教育体制のもとに，教養教育と専門教育を並行して行っている。教養科目については，全学体制のもとに全学共通教育として進められている。

○全学共通教育の最低修得単位数

科目区分	卒業要件修得単位数
初年次セミナー	2 単位以上
人文科学	4 単位以上
社会科学	4 単位以上
自然科学	4 単位以上
複合領域	4 単位以上
英語	4 単位以上
第 2 外国語	2 単位以上
スポーツ・健康科学	2 単位以上
自由選択科目	4 単位以上
合計	30 単位以上

○全学共通教育の開講時間枠

1 年次前学期

曜日　時限	1	2	3	4	5
月	◎	◎	◎	◎	◎
火	◎	◎	◎	◎	◎
水	◎	◎			
木					
金					

1 年次後学期

曜日　時限	1	2	3	4	5
月	◎	◎	◎	◎	◎
火	◎	◎	◎	◎	◎
水	◎	◎			
木					
金					

◎　：全学共通教育の開講時間枠

空白：専門教育の開講枠

(3) 専門教育

① アクティブラーニングを取り入れた教育

各授業の中で、学生が課題発見と解決に向けて主体的、協働的、能動的に学修することを初年次から積み重ねていけるよう、ディベートやグループワーク、グループディスカッション、フィールド学習、e-ラーニング，患者や家族の体験談を聞く機会を取り入れる等の工夫をしている。そのためには事前・事後学習としてホームワークが必要となる。セミナー室には課題に関連した専門書や統計資料を配置して自由に閲覧可能とし自習室も増やした。また，コンピュータ，プリンタ，スキャナーを各セミナー室に配置して学生が自由に使用できるようにしている。

② 看護学臨地実習

必修科目である臨地実習（23 単位）は，卒業要件単位数（127 単位以上）のうち約 20%を占める非常に重要な専門教育科目であり，看護師養成には欠かせないものである。そのため，学生の基礎科目や専門科目の学習進度に合わせ，1 年次の初期体験実習による動機付け，2 年生の基礎看護学実習における看護過程の展開，3 年次から 4 年次にかけての分野別実習における看護過程の展開，最終段階では統合実習としてこれまでの学習を統合し専門性を深めるように構成してきた。

看護基礎教育の実習では附属病院以外の施設に関してほぼ安定してきており，施設における指導体制の安定化によって実習における学習効果を高めていくことが可能になってきた。今後，実習指導に関わる教員のさらなる指導能力の向上，実習施設との連携の充実を図ることによって，ディプロマポリシーに合った学生をより多く育成していくことが課題である。

助産師教育課程の実習では、少子化の影響を受け学生の受け持ちを承諾してもらえないことが増えてきている。さらに 9 週間で 10 例の確保が多大な努力を要する現状である。

保健師課程の実習は県内で看護系大学が 6 大学に増加し、さらに今後増える予定であり実習施設の確保が困難になる可能性がある。

(4) 他大学における授業科目の履修方針と状況

学則第 39 条の規定「教育上有益と認めるときは，他の大学又は短期大学との協議に基づき，学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。」とあるが，専門科目についての実績はない。

平成 23 年度以降，留学した学生からの申請に基づく単位認定は行っていない。

(5) 在籍，留年，休学，退学の状況

過去 3 年間の状況は次表のとおりである。

区　分	在　籍	留　年	休　学	退学（除籍を含む。）
平成 27 年度	318	2	5	1
平成 28 年度	320	6	8	2
平成 29 年度	319	9	9	0

(6) 教育施設・設備の現状

区　分	面　積	用　途	設　備
看護学科校舎 1 階　講義室 1	134 ㎡	講　義	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備，資料提示装置
看護学科校舎 3 階　講義室 2	105 ㎡	〃	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備，資料提示装置
看護学科校舎 3 階　講義室 3	111 ㎡	〃	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備，資料提示装置
看護学科校舎 4 階　講義室 4	90 ㎡	〃（学部，大学院）	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備
看護学科校舎 5 階　講義室 5	68 ㎡	〃	プロジェクター，ビデオ投影装置
総合研究棟 1 階　セミナー室	第 1～9 室 26 ㎡～47 ㎡	グループワーク，初期体験実習，自己学習	パソコン，プリンター，スキャナー，書棚（授業用専門書）

区　　分	面　積	用　途	設　　備
総合研究棟 5 階　セミナー室	第 10～13 室 22 ㎡～45 ㎡	グループワーク 自己学習	パソコン，プリンター
総合研究棟 3 階　大学院セミナー室 1・2	2 室 23 ㎡～24 ㎡	講　　義	
総合研究棟 3 階　大学院生研究室	2 室 23 ㎡～24 ㎡	研　　究	
看護学科校舎 2 階　基礎看護実習室 1	258 ㎡	基礎看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置，ガス乾燥機
看護学科校舎 2 階　老年在宅実習室	92 ㎡	老年・在宅看護学実習	バリアフリーモデルルーム
総合研究棟 2 階　成人看護実習室 1	23 ㎡	成人看護学実習	
総合研究棟 2 階　成人看護実習室 2	106 ㎡	成人看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置,
総合研究棟 2 階　成人看護実習室 3	26 ㎡	成人看護学実習	書棚
総合研究棟 2 階　基礎看護実習室 2	47 ㎡	基礎看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置
総合研究棟 3 階　地域看護実習室	94 ㎡	地域看護学実習	
総合研究棟 3 階　精神看護実習室 1	53 ㎡	精神看護学実習	
総合研究棟 3 階　精神看護実習室 2	26 ㎡	精神看護学実習	
総合研究棟 3 階　地域・精神看護実験室 1・2・3・4	4 室 23 ㎡～24 ㎡	精神看護学実習	
総合研究棟 4 階　母性・小児看護実習室 1	147 ㎡	母性・小児看護学実習	沐浴槽，乾燥機
総合研究棟 4 階　母性・小児看護実習室 2	26 ㎡	母性・小児看護学実習	保育器
総合研究棟 4 階　助産学実習室	93 ㎡	助産学実習	沐浴槽，分娩台
総合研究棟 4 階　母性・小児看護実験室	92 ㎡	母性・小児看護学実習	IH クッキングヒーター，パソコン，プリンター

(7) 成績の評価，認定の基準

成績（平成 24 年度以降）は，試験等の結果を総合して以下の区分で評価する。

秀（90 点以上）　合格
優（89 点～80 点）合格
良（79 点～70 点）合格
可（69 点～60 点）合格
不可（60 点未満）　不合格

病気その他正当な理由により定期試験を受けられなかった者について，願い出により追試験を受けることができる。定期試験及び追試験に不合格となった者について，1 回に限り再試験を受けることができる。

(8) 看護師等国家試験合格状況

過去 3 年間の合格状況は次表のとおりである。

区分		受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成 26 年度	保健師	80	80	100.0	99.4
	助産師	4	4	100.0	99.9
	看護師	81	80	98.8	90.0
平成 27 年度	保健師	15	15	100.0	89.8
	助産師	4	4	100.0	99.8
	看護師	77	75	97.4	89.4

平成 28 年度	保健師	20	20	100.0	90.8
	助産師	4	4	100.0	93.0
	看護師	80	80	100.0	88.5

(9) 学生の就職状況

過去 3 年間の卒業生の就職状況は次表のとおりである。

区分	看護師	保健師	助産師	進学	その他
平成 26 年度	67	1	4	5	1
平成 27 年度	62	6	4	2	2
平成 28 年度	57	8	4	6	3

4. 学生生活への配慮

(1) 奨学金の種類と採択状況

過去 3 年間のデータは次表のとおりである。

区　　分	日本学生支援機構				その他の奨学金	
	第 1 種		きぼう 21			
	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数
平成 27 年度	19	16	13	12	2	2
平成 28 年度	8	7	7	7	1	1
平成 29 年度	15	12	7	7	1	0

(2) 授業料の免除の状況

過去 3 年間の状況は次表のとおりである。

区　分	在籍者数	前学期			後学期		
		申請	免除		申請	免除	
			全額	半額		全額	半額
平成 27 年度	318	28	15	11	28	16	7
平成 28 年度	320	26	14	7	26	14	8
平成 29 年度	319	20	12	5	20	10	7

(3) 学生生活相談の体制と実態

学生の個人的な生活に関する相談については，学務係が窓口として対応している。またキャンパスヘルパーやハラスメント委員による相談も行っている。さらに助言教員制度を取っており各教員が各学年 2~4 名の学生を担当し，相談窓口を幅広くすることで相談しやすい環境を整えている。

特に個人的相談については助言教員が応じ，保健管理センター等と連携を取り，講座レベルでの指導事項などについては当該講座の教員により対応し，総合的には看護学科教務厚生委員会において対応している。

(4) 課外活動の実態

看護学科で許可している学生団体は存在しないが，岐阜大学教学委員会の認める体育系及び文科系サークル（下表のとおり），また岐阜大学医学部教務厚生委員会の認める医学部体育系及び文科系サークルに所属して活動する学生は少なくは無く，運動系サークルではマネージャーで活躍する学生が多い。またサークルの中には，その活動が認められ 2 年連続で補助金を得たり，優秀な個人成績をおさめ表彰されるものもいる。キャンパスライフが有意義で，健全なものとなるように課外活動を行う学生数の実態の全学サークルについては，次表のとおりであり体育系が 35 名ほどであり，文科系が 25 名ほどである。

区　分	全学サークル	
	体育系	文化系
平成 27 年度	36	25
平成 28 年度	32	22
平成 29 年度	40	23

※各年度の 5 月末での部員数であり，新入部員数を含む。

3　研究活動

〔基礎看護学講座〕

（1）基礎看護学分野

1. 研究の概要

基礎看護学分野では，看護基礎教育から看護継続教育に係る研究や看護技術の質の向上を目指した研究にさらに国際化に対応する英語コミュニケーションの研究に取り組んでいる。具体的には，以下のようなテーマがあげられる。

・基礎看護技術教育の方法に関する研究
・看護職のキャリア開発・人的資源管理・ストレスマネジメントに関する研究
・看護技術の科学的根拠の検証・看護技術物品の開発
・言語コミュニケーションに関する研究

2. 名簿

教授：	竹下　美恵子	Mieko Takeshita
准教授：	田島　弥生	Yayoi Tajima
准教授：	魚住　郁子	Ikuko Uozumi
准教授：	社本　生衣	Ikue Shamoto
助教：	水野　郁子	Ikuko Mizuno
助教：	佐野　亜由美	Ayumi Sano

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）竹下美恵子，魚住郁子，尾藤泰子，佐野亜由美，中島美奈子，石黒なぎさ．学習者主体の看護技術教育における学生による模擬患者の学習効果，看護人材育成，日総研出版 2016 年；第 13 巻，第 4 号：55－59.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1）河村治代，小松妙子．看護過程のアセスメントにおける困難な内容と困難に影響する要因，岐阜看護研究会誌　2015 年；第 7 号：75－85.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1）竹下美恵子，滝内隆子，小松妙子，岡本千尋，水野郁子．基礎看護技術における教育方法の検討，岐阜看護研究会誌　2015 年；第 7 号：57－66.
2）岡本千尋，滝内隆子，小松妙子，竹下美恵子，水野郁子．ブレンディッドラーニングを用いた看護技術の修得支援の効果－学生のアンケート結果から－，岐阜看護研究会誌　2015 年；第 7 号：67－74.
3）尾藤泰子，滝内隆子．明治期における岐阜県の産婆規則と産婆養成教育，岐阜看護研究会誌　2016 年；第 8 号：23－36.
4）竹下美恵子.看護職のグリーフ・ストレスとストレス関連成長の研究,教育医学　2016 年；第 61 巻，第 4 号：290－300.
5）魚住郁子．高齢者施設における看護職のストレスに関する研究の動向,金城学院大学大学院　人間生活学研究科論集，2017 年；第 17 号, 29－36.
6）魚住郁子，ストレスを抱えながらも老人保健施設の看護師が就労を継続するプロセス，日本看護医療学会第 2017 年；19 巻, 1－12.

原著（欧文）

なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1）研究代表者：田島弥生；学術研究助成基金助成金研究活動スタート支援：日本語談話の情報構造と周辺認知との関係を眼球運動測定によって実験的に解明する研究；平成 27－28 年度；1,790 千円

(1,690：100 千円)

2) 研究代表者：竹下美恵子；大学活性化経費(教育)：再生刺激法を活用した臨床場面に即した看護技術の能動的学修(基礎看護技術Ⅰ，基礎看護技術Ⅱ)；平成 27 年度；400 千円

3) 研究代表者：魚住郁子；大学活性化経費(教育)：デジタルストリーを用いた排泄ケアにおける倫理的教育(基礎看護技術Ⅰ，基礎看護技術Ⅱ)；平成 29 年度；420 千円

4) 研究代表者：竹下美恵子；大学活性化経費(地域連携)：看護学科企画　看護職輝き輝き(イキイキ)プログラム；平成 29 年度；150 千円

5) 研究代表者：社本生衣；科学研究費(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)一般)：電動式シート型洗髪槽と湯循環式洗髪用具の開発のための基礎的研究；平成 29－31 年度；3,150 千円(2,700 千：810 千円)

6) 研究代表者：社本生衣；平成 29 年度「民間企業との共同研究促進事業」：電動式シート型洗髪槽と湯循環式洗髪用具の開発；300 千円

7) 研究代表者：田島弥生；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：外国人患者と医療者間のコミュニケーション阻害要因の社会言語学的解明；平成 29－31 年度；1,040 千円(390：520：130 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

1) 研究者名：小松妙子，竹下美恵子，岡本千尋，尾藤泰子，棚橋一将：看護技術シミュレーターの開発(1)；平成 27－28 年度；350 千円：(株)タナック

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

1) 竹下美恵子：日本教育医学会幹事(平成 27 年 8 月 1 日～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

1) 田島弥生：国際医療英語認定試験；board member (平成 28 年 4 月～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

1) 竹下美恵子：看護学生の二次的ストレスに伴う共感疲労のストレスマネジメント教育プログラムの開発(研究課題番号 24593281)平成 24～26 年度科学研究費補助金，基盤研究 C 報告書(平成 27 年 5 月)

2) 田島弥生：日本語談話の情報構造と周辺認知との関係を眼球運動測定によって実験的に解明する研究(研究課題番号 24593281)平成 27～28 年度科学研究費補助金，研究活動スタート支援報告書(平成 29 年 5 月)

11. 報道

1） 田島弥生：「研究室から　大学はいま」言語と思考の関係性を解明：岐阜新聞(2016 年 5 月 17 日)
2）魚住郁子：「研究室から　大学はいま」ストレス、成長のきっかけに：岐阜新聞(2017 年 5 月 9 日)
3） 田島弥生：「南フロリダ大教員が表敬訪問」：文教ニュース(2018 年 2 月 12 日)

12. 自己評価

評価

3 年間で複数の分野教員の異動に伴い，新たな教員を迎えるという状況が続き，教育活動の質を低下させないことを最優先とし，協力しあって取り組んできた。基礎看護技術教育を従来の教員主導から，学生主体のアクティブ・ラーニングを取り入れた深い学びを目指した教育方法に取り組むことができた。また，看護学科の強みを生かした社会貢献活動にも積極的に取り組み，平成 27 年から「岐阜看護教育交流会」をスタートし継続してきた。国際化の教育において，学生の海外研修における調整から取り組み，平成 28 年度からスタートすることに貢献できた。

その一方で研究活動のできる環境は十分とはいえず，時間的制約の中で各自が研究に取り組んでいる状況である。例えば，老人保健施設に勤務する看護職に対する研究では，論文発表ができ，さらなる調査へと着実に取り組んでいる。また，エビデンスに基づいた洗髪を行うための用具の開発に取り組み，ほぼ製品が完成し，今後，試用によるデータ収集に取り組んでいく段階へと進めることができている。

現状の問題点及びその対応策

教育活動に主眼を置き，研究活動の時間確保が難しい状況が続いている。教育活動における授業研究へ分野としての取り組み，各自の研究に対する協力など，教育，研究，社会貢献のバランスがとれるように努めていく。

今後の展望

各自が取り組んでいる研究を推進するとともに，医療・看護の動向をふまえた意義の高い研究テーマに取り組み，研究費の獲得，教育，看護の質の向上へと貢献したい。

（2）生命機能学分野

1. 研究の概要

本分野では，分子生物学やバイオインフォマティクスの手法を用いて，疾患の成因や細胞機能のメカニズムについて分子レベルで研究を行っている。研究で特に注目している生体分子は，細胞分裂制御に関わる中心体タンパク質である CLERC/LRRCC1 であり，これは本分野で独自に見出し，解析を継続してきた。また，マスト細胞上に発現する高親和性 IgE 受容体（FcεRI）の β 鎖の構造解析も継続して行っており，アレルギー疾患との関連に注目した研究を進めている。一方，コンピュータを用いたバイオインフォマティクスに基づく研究として，多様な生物種のゲノム情報を活用することにより，生体分子の分子進化経路の解析や微生物の病原因子の進化などについて研究している。さらに，近年大量に公開されている各種疾患のトランスクリプトームデータに着目し，遺伝子ネットワークの観点から，疾病マーカーの同定や疾病メカニズムの解析を進めている。

2. 名簿

教授：　武藤吉徳　Yoshinori Muto
准教授：　寺田知新　Tomoyoshi Terada

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）
なし

総説（欧文）
なし

原著（和文）
なし

原著（欧文）

1） Kizaki K, Terada T, Arikawa H, Tajima T, Imai H, Takahashi T, Era S. Effect of reduced coenzyme Q10 (ubiquinol) supplementation on blood pressure and muscle damage during kendo training camp: a double-blind, randomized controlled study. J Sports Med Phys Fitness. 2015;55:797-804. CS 1.07
2） Arikawa H, Terada T, Takahashi T, Kizaki K, Imai H, Era S.Continuous Vocalization during Kendo Exercises Suppresses Expiration of CO_2. Int J Sports Med. 2015;36:519-525. CS 2.29
3） Muto Y, Guindon S, Umemura T, Kőhidai L, Ueda H. Adaptive evolution of formyl peptide receptors in mammals. J Mol Evol. 2015;80:130-141. CS 1.50
4） Akahori H, Guindon S, Yoshizaki S, Muto Y. Molecular evolution of the TET gene family in mammals. Int J Mol Sci. 2015;16:28472-28485. CS 3.37
5） Takahashi T, Terada T, Arikawa H, Kizaki K, Terawaki H, Imai H, Itoh Y, EraS. Quantitation of Oxidative Modification of Commercial Human Albumin for Clinical Use: Thiol Oxidation and Carbonylation. Biol Pharm Bull. 2016;39(3):401-408. CS 1.79
6） Terada T, Takahashi T, Arikawa H, Era S. Analysis of the conformation and thermal stability of the high-affinity IgE Fc receptor β chain polymorphic proteins. Biosci Biotechnol Biochem. 2016;80(7):1356-1361. CS 1.19
7） Maeda K, Yoshizaki S, Iida T, Terada T, Era S, Sakashita K, Arikawa H. Improvement of the fraction of human mercaptalbumin on hemodialysis treatmentusing hydrogen-dissolved hemodialysis fluid: a prospective observational study. Renal Replacement Therapy. 2016;2:42.
8） Sugiyama K, Tago K, Matsushita S, Nishikawa M, Sato K, Muto Y, Nagase T, Ueda H. Heterotrimeric G protein Gαs subunit attenuates PLEKHG2, a Rho family-specific guanine nucleotide exchange factor, by direct interaction. Cell Signal. 2017;32: 115–123. CS 4.48

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者 : 寺田知新, 研究分担者 : 恵良聖一 ; 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) : 高親和性 IgE 受容体β鎖 D234 に会合する分子の同定と治療・創薬開発への応用 ; 平成 26－28 年度 ; 4,940 千円 (2,340 : 1,300 : 1,300 千円)

2） 研究代表者 : 富田美穂子(松本歯科大学), 研究分担者 : 中野敬介,寺田知新, 川上敏行 ; 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) : 音楽が疼痛閾値に及ぼす影響と自律神経のバランスとの関係 ; 平成 25－27 年度 ; 5,070 千円(1,300 : 1,820 : 1,950 千円)

3） 研究代表者 : 富田美穂子(松本歯科大学), 研究分担者 : 寺田知新, 川上敏行 ; 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) : ストレスによる生体反応が痛覚伝導路に与える影響 ; 平成 28－30 年度 ; 4,680 千円(2,210 : 1,560 : 910 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

寺田知新 :

1） 日本生理学会評議員(平成 23 年 4 月～現在)

2） 日本てんかん学会評議員(平成 25 年 10 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

武藤吉徳 :

1） Int. J. Biostatistics & Computational Biology ; Member of Editorial Board (2016.10～現在)

2） Advances in Planar Lipid Bilayers and Liposomes ; Member of Editorial Board (～現在)

3） J. Mol. Genet. Med. ; Member of Editorial Board(2016.02～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

寺田知新 :

1） 高親和性 IgE 受容体 β 鎖 D234 に会合する分子の同定と治療・創薬開発への応用 : 平成 26－28 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書 : 1－6(平成 29 年 6 月)

11. 報道

寺田知新 :

1） 「研究室から大学はいま」血清成分と疾患の関係研究 : 岐阜新聞(2017 年 6 月 20 日)

12. 自己評価

評価

平成 28 年度には，江村教授の退職に伴い寺田准教授が新たに着任した。寺田准教授の専門領域は生理学およびアレルギー学であり，本分野で従来から進めてきた分子レベルでの研究やバイオインフォマティクスと関連が深いため，分野内の教員間での共同研究が容易な人員構成となった。また，寺田准教授の参加により，本分野では，スポーツ医学，分子生理学，生化学，分子進化学等の多様な研究成果を公表することが可能となった。ただし，少人数の分野であることに変わりはなく，出版数は比較的少ない。

現状の問題点及びその対応策

現状では，分野内での共同研究体制の確立が急務であるため，ここ 1, 2 年で分野内共同研究として推進できるコンピュータを用いたバイオインフォマティクスに関する研究手法の確立を進めてきた。本年度には，技術的基盤もある程度は整い，少しずつ研究成果が得られるようになりつつある。今後は，このバイオインフォマティクス技術を活用して，ゲノム情報を用いた様々な解析を可能にしたい。

今後の展望

多様なゲノム情報を活用できるバイオインフォマティクスに基づく新たな解析手法を考案し，各種生体分子の機能や分子進化について独自の研究を進めたい。また，疾病のトランスクリプトームデータなどを積極的に活用し，疾病マーカーの同定などについて学内の他の研究室との積極的な共同研究を行い，研究成果の奥行きを深めていきたい。

〔母子看護学講座〕

（1）母性看護学分野

1. 研究の概要

井關敦子：
　助産師教育に関する研究, LGBT および性別違和（GD）に関する研究
今田葉子：
　助産師が提供する周産期母子ケア，母性看護学教育・技術に関する研究
山口琴美：
　母性看護学教育及び助産師教育に関する研究
新川治子：
　妊婦の健康管理及び男女の性役割観に関する研究
金子洋美：
　妊娠・出産における安全性と快適さに関する研究，周産期の家族に関する研究，母性看護学教育に関する研究
長谷川文子：
　分娩時出血量に関する研究，若年女性に対する健康教育について
三尾亜喜代：
　臨地実習における教育方法に関する研究，分娩体位に関する研究

2. 名簿

教授：	井關敦子	Atsuko Iseki
准教授：	今田葉子	Yoko Imada
准教授：	山口琴美	Kotomi Yamaguchi
助教：	金子洋美	Hiromi Kaneko
助教：	長谷川文子	Ayako Hasegawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）
1）今田葉子．パートⅡ　正常な妊娠とアセスメント　末期の健康状態，妊娠末期の看護：村本淳子，高橋真理編．周産期ナーシング，東京：ヌーヴェルヒロカワ；2017 年：64－68, 72－79, 102－111.

著書（欧文）
なし

総説（和文）
1）山口琴美．助産所での B 群溶血性レンサ球菌(GBS)陽性妊婦のガイドライン遵守状況調査の自由記載から考える問題点と課題，助産師, 2017 年：71 巻 3 号：43－47.
2）山口琴美，井關敦子，大橋一友．妊娠線出現前の妊婦の妊娠線に対する認識と妊娠線予防行動との関連，母性衛生, 2015 年：55 巻 4 号：783－790.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1）三尾亜喜代，曽田陽子，小松万喜子．臨地実習で看護学生が注意を向ける看護師の行動と見習いたくないと認識する行動，日本看護学教育学会誌, 2016 年：26(1)巻, 43－54.
2）金子洋美，森田俊一，松宮良子．マタニティ・ヨガの効果－身体的効果を定量的に解明する－，マタニティ・ヨガ通信, 2016 年；62 号：3－5.
3）金子洋美，松宮良子．子育て期の親の心境の実態と支援　第 1 報　子育て期の親の心配事に寄り添う支援，成育支援研究　2016 年；7 号：49－61.
4）金子洋美，松宮良子，森田俊一．母親が妊娠期を主体的に過ごすための取り組み－マタニティ・ヨガの効果を目で確かめてやる気が出る－　成育支援研究　2016 年；7 号：42－48.
5）金子洋美，松宮良子.子育て期の親の心境の実態と支援　第 2 報　親の不全感を軽減する取り組みの検討，成育支援研究　2017 年；8 号：11－16.
6）金子洋美，服部律子．母性看護学演習において家族を含めた支援を考える演習方法の検討，岐阜県立看護

大学紀要　2017 年；17(1)巻：55-63.
7） 田切友季恵, 山口琴美, 古田真里枝. 大学生における産後うつ病の認知度についての質問紙調査, 京都母性衛生学会雑誌, 2016 年：24 巻 1 号：17－22.
8） 井關敦子, 山田奈央, 佐藤綾子, 吉留厚子. 助産師学生の分娩介助演習におけるシミュレーション教育の効果と課題, 母性衛生, 2017 年：57(4)巻, 686－694.

原著（欧文）
1） Reinoos RL. & Shinkawa H. Abenomics and Gender Beliefs: A Preliminary Report, 広島経済大学研究論集 2016 年；38 巻：223-230.
2） Hiromi Eto, Ayako Hasegawa, Yaeko Kataoka, Sarah E. Porter, Factors contributing to postpartum blood-loss in low-risk mothers through expectant management in Japanese birth centers, Women and Birth, 2017, 30, 158-164.

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：金子洋美, 研究分担者：松宮良子；科学研究費補助金基盤研究(C)：マタニティ・ヨガの妊娠・分娩改善効果に関する科学的検証；平成 26－29 年度；3,380 千円(1,040：650：650：1,040 千円)
2）研究代表者：金子洋美, 研究分担者：松宮良子, 森田俊一；公益財団法人　小川科学技術財団：科学的な安産体操支援ツールの開発；平成 28－29 年度；498 千円
3） 研究代表者：新川治子；科学研究費助成事業基盤研究(C)：妊娠中の快・不快体験が分娩・育児に及ぼす影響に関する研究；平成 25－28 年度；3,120 千円
4） 研究代表者：新川治子；聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金：妊娠中のマイナートラブルに対する熟練助産師の「助産力」に関する研究；平成 28 年度；100 千円
5） 研究代表者：三尾亜喜代：科学研究費補助金基盤研究(C)：不妊治療終結期の女性の意思決定支援プログラムの開発と検証；平成 28－31 年度：4,550 千円(910：1,040：1,300：1,300)
6） 研究代表者：山口琴美；科学研究費補助金基盤研究(C)：開業助産師による GBS 感染症ガイドライン実践　診療連携実現化への実践チャート作成；平成 28 - 30 年度；4810 千円
7） 研究代表者；山口琴美；科学研究費補助金若手研究(C)：妊娠線予防法確立に向けた標準的妊娠線評価基準の作成と発生機序の解明；平成 25－27 年度；総額 4290 千円
8） 研究代表者；井關敦子；科学研究費補助金基盤研究(C)；性別違和における成人 MtF の生活と QOL の実態, および QOL と化粧との関連；平成 29 年度－32 年度；総額 4,290 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

1） 金子洋美：ストレッチ評価用器具(実用新案登録第 3193887 号)(平成 29 年)

6. 学会活動

1）学会役員

井關敦子：
1） 岐阜県母性衛生学会幹事(平成 29 年度)

金子洋美：
1） 日本看護研究学会第 43 回学術集会　実行委員(平成 29 年度)

山口琴美：
1） 第 30 回日本助産学会学術集会　実行委員(平成 28 年)
2） 京都母性衛生学会幹事(平成 27・28・29 年)
3） 京都府助産師会北支部業務検討委員(平成 29 年)

2）学会開催
なし

3）学術雑誌
山口琴美：
1） The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research　査読(平成 27 年)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長
山口琴美：
1） 第 30 回日本助産学会学術集会　ポスター発表座長(平成 28 年)

8. 学術賞等の受賞状況
山口琴美
1） The 2nd International Neonatology Association Conference(第 2 回国際新生児学会議)；1st Prize for E poster 授賞(平成 28 年)

9. 社会活動
井關敦子：
1） 教員免許状更新講習会講師(平成 28 年度)
2） 朝日大学非常勤講師(平成 28 年度)
新川治子：
1） 岐阜県保健師助産師看護師短期実習指導者講習会特定分野講師(平成 28 年度)
2） 教員免許状更新講習会講師(平成 28 年度)
金子洋美：
1） 岐阜県助産師会　育児相談・健康相談(平成 28・29 年度)
2） 教員免許状更新講習会講師(平成 28 年度)
3） 朝日大学非常勤講師(平成 28 年度)
長谷川文子：
1） 岐阜県助産師会　育児相談・健康相談(平成 29 年度)
今田葉子：
1） 岐阜県助産師会　育児相談・健康相談(平成 29 年度)

10. 報告書
なし

11. 報道
井關敦子：「里帰り出産」の負担を軽減：岐阜新聞（平成 28 年 9 月 13 日朝刊）

12. 自己評価
評価
・授業や実習内容および実習方法，評価方法の充実や改善に努めた。

現状の問題点及びその対応
1）助産学教育
・助産師教育における過密なカリキュラムが課題であったため科目配置を検討し，29 年度から 3 年次科目を分散させた。
・分娩介助数の確保は重要な問題である，教育内容および方法を工夫するとともに臨床との協働により，教育効果の向上および安全な助産学実習の遂行を図る。
2）母性看護学教育
・母性看護技術の向上と知識の定着を目標に，実習前の準備学習について，筆記試験および演習を追加した。

今後の展望
・分野の円滑な運営，さらなる研究や社会活動発展のために自己研鑽する。
・助産学，母性看護学教育における課題は継続しており，引き続き解決のための取り組みが必要である。

（2）小児看護学分野

1. 研究の概要

小児看護学分野では，以下に示すような研究，または研究に付随する活動を行ってきた。

- アトピー性皮膚炎患児と家族に対する看護師の教育効果の評価指標の検討
- アレルギーをもつ子どもと家族への療養能力向上を目指した，アレルギー専門職（アレルギーエデュケーター）への教育および研究支援
- 子どもと家族主体の在宅ケアにおけるケアモデルの開発及び実践推進システムに関する研究
- 小児期発症の慢性疾患患者の成人移行に関する研究
- 障害児入所施設に入所する虐待やネグレクトを受けた子どもに支援を行う専門職が経験する困難に関する研究
- 虐待を受けた子どもへの治療的養育環境と子どもの変化過程に関する研究

2. 名簿

教授：	杉浦太一	Taichi Sugiura
准教授：	田中千代	Chiyo Tanaka
助教：	大橋麗子	Reiko Ohashi
助教：	細野亜里	Ari Hosono

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 田中千代，丸　光恵．第 3 章　子どもにおける疾病の経過と看護　B 急性期にある子どもと家族の看護：奈良美保他編．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学概論小児臨床看護総論　第 13 版，東京：医学書院；2015 年：253－257.
2） 田中千代，丸　光恵．第 3 章　子どもにおける疾病の経過と看護　C 周手術期にある子どもと家族の看護：奈良美保他編．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学概論小児臨床看護総論　第 13 版，東京：医学書院；2015 年：257－270.
3） 田中千代．第 9 章　消化器疾患と看護　A 看護総論：奈良美保他編．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　第 13 版，東京：医学書院；2015 年：224－225.
4） 田中千代．第 9 章　消化器疾患と看護　C 疾患をもった子どもの看護：奈良美保他編．系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　第 13 版，東京：医学書院；2015 年：266－276.
5） 杉浦太一．第Ⅴ章　検査・処置・治療に伴う看護技術　10　吸入：添田啓子，鈴木千衣，三宅玉恵，田村佳士枝編．看護実践のための根拠がわかる　小児看護技術　第 2 版，東京：メヂカルフレンド社；2016 年：261－270.
6） 杉浦太一．第 4 章　治療援助技術　10　牽引・固定法　①牽引(上肢・下肢)　②ギプス固定(四肢・体幹)　③装具・義肢：浅野みどり編．根拠と事故防止からみた　小児看護技術　第 2 版，東京：医学書院；2017 年：457－479.
7） 杉浦太一．第 5 章　救急手技　2　頭部外傷：浅野みどり編．根拠と事故防止からみた　小児看護技術　第 2 版，東京：医学書院；2017 年：495－500.
8） 杉浦太一．第 5 章　救急手技　8　熱中症(暑熱障害)：浅野みどり編．根拠と事故防止からみた　小児看護技術　第 2 版，東京：医学書院；2017 年：522－527.
9） 杉浦太一．第 2 章　幼児期　21　ネフローゼ症候群：浅野みどり，杉浦太一，山田知子編．発達段階からみた　小児看護過程＋病態関連図　第 3 版，東京：医学書院；2017 年：330－344.
10） 杉浦太一．第 2 章　幼児期　26　アトピー性皮膚炎：浅野みどり，杉浦太一，山田知子編．発達段階からみた　小児看護過程＋病態関連図　第 3 版，東京：医学書院；2017 年：420－431.
11） 杉浦太一．第 3 章　学童期～思春期　32　急性糸球体腎炎(急性腎炎症候群)：浅野みどり，杉浦太一，山田知子編．発達段階からみた　小児看護過程＋病態関連図　第 3 版，東京：医学書院；2017 年：512－523.
12） 杉浦太一．第 3 章　学童期～思春期　34　若年性特発性関節炎：浅野みどり，杉浦太一，山田知子編．発達段階からみた　小児看護過程＋病態関連図　第 3 版，東京：医学書院；2017 年：548－560.
13） 杉浦太一．第 3 章　学童期～思春期　35　骨折：浅野みどり，杉浦太一，山田知子編．発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図　第 3 版，東京：医学書院；2017 年：565－577.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 杉浦太一．アレルギーエデュケーター実践報告　大学のアレルギーエデュケーターの立場から，子どもの健康科学　2015 年；15 巻：41－46.
2） 杉浦太一．看護研究の進め方　事例研究：とらえどころのない反面、自由度の高い研究手法，日本小児難治

喘息・アレルギー疾患学会誌　2016 年；14 巻：49－52.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 大橋麗子. 虐待を受けた子どもの内省機能が変化する過程　児童福祉施設における治療的養育による変化, 岐阜看護研究会誌　2015 年；7 巻：1－9.
2） 大橋麗子. 治療的養育により虐待を受けた子どもの感情調整方略が変化する過程　障害児入所施設における 1 事例, 子どもの虐待とネグレクト　2015 年；17 巻：65－74.
3） 大橋麗子. 障害児入所施設の看護師が被虐待児支援で経験する困難　施設勤務年数と被虐待児支援経験との関連, 小児保健研究　2015 年；74 巻：405－412.
4） 大橋麗子. 医療型障害児入所施設における研修会「子ども虐待とその対応」の効果と課題, 岐阜看護研究会誌　2016 年；8 巻：37－43.
5） 大橋麗子. 専門職が認識する虐待を受けた子どもへの支援が機能する構造　医療型障害児入所施設における調査, 小児保健研究　2016 年；75 巻：209－216.
6） 大橋麗子. 医療型障害児入所施設における虐待を受けた子どもへの職員の対応行動とバーンアウトの関連施設勤務年数と研修会前後の検討, 子どもの虐待とネグレクト　2016 年；18 巻：106－114.
7） 山田知子, 石井 真, 浅野みどり, 杉浦太一, 縣 裕篤. 食物アレルギーを持つ学童の学校生活における悩みと取り組みの実際, 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌　2016 年；14 巻：268－275.

原著（欧文）
なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：山田知子(中部大学生命健康科学部), 研究分担者：浅野みどり(名古屋大学医学系研究科), 杉浦太一, 石井　真(中部大学生命健康科学部)；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：食物アレルギーを持つ学童の適応的な学校生活にむけた協働モデルの構築；平成 25－27 年度；4,680 千円(2,860：1,040：780 千円)
2） 研究代表者：大橋麗子；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：医療型障害児入所施設における被虐待児の地域移行・自立支援に関する研究；平成 25－28 年度；2,600 千円(780：650：650：520 千円)
3） 研究代表者：奈良間美保(名古屋大学医学系研究科), 研究分担者：大塚弘子(名古屋大学医学系研究科), 松岡真里(高知大学医学部), 田中千代, 堀　妙子(京都橘大学)；学術研究費助成事業基盤研究(B)：子どもと家族主体の在宅ケアを支えるケアモデル開発と実践推進システムの考案；平成 25－28 年度；6,500 千円(2,990：1,170：1,170：1,170 千円)
4） 研究代表者：杉浦太一, 研究分担者：山田知子(中部大学生命健康科学部)；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：アトピー性皮膚炎患児と家族に対する看護師 PAE の教育効果の評価指標の検討；平成 27－29 年度；1,400 千円(600：500：300 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

杉浦太一：
1） 日本看護医療学会評議員(～平成 29 年 3 月)
2） 一般社団法人日本小児看護学会社員(～平成 29 年 6 月)
3） 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会(平成 29 年 7 月から一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会) 認定小児アレルギーエデュケーター教育研修委員会委員(平成 24 年 7 月～現在)

4） 日本家族看護学会評議員(平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月)
5） 日本看護医療学会理事(平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月)
6） 公益社団法人日本看護科学学会社員(平成 27 年 4 月～現在)
7） 一般社団法人日本看護研究学会社員(平成 28 年 5 月～現在)
8） 日本子ども健康科学会理事(平成 29 年 10 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

杉浦太一：

1） 日本看護研究学会雑誌；編集委員(～平成 27 年 12 月)
2） 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌(平成 29 年 7 月から日本小児臨床アレルギー学会誌)；編集委員(平成 29 年 4 月～現在)

田中千代：

1） 日本小児看護学会誌；編集委員(～平成 27 年 8 月)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

杉浦太一：

1） 第 19 回日本看護医療学会学術集会(平成 29 年 9 月，愛知，シンポジウム「暮らしづらさを抱える人々への支援における人間関係」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

1） 杉浦太一：「研究室から　大学はいま」子どもの QOL 向上を重視：岐阜新聞(2017 年 8 月 8 日)

12. 自己評価

評価

分野の構成員数に比較して，著書，原著・総説論文の公表ができたと考える。研究を進めることができ，成果の論文公表が行えた。著書は，看護学生の教科書やサブテキストだけでなく，看護師のための実践に役立つ内容に関しても発行することができた。また，学会活動や社会貢献としても実績をあげられてきた。

現状の問題点及びその対応策

少ない教員で，学生や院生の教育，学内運営，研究を行っている現状である。しかし，臨床看護学の研究では研究フィールドを学外に求める頻度が高いことと，半年をかけて行う臨地実習指導も附属病院だけでなく学外に依存する必要があり，どうしても研究に割く時間が制限されてしまう。研究に割く時間を確保するために，どのように教育体制を工夫していくかが課題として残されている。１分野であっても，教員それぞれが取り組んでいる研究課題は異なっている。また，競争的研究資金を継続して獲得していくことが課題としてあげられる。

今後の展望

行ってきた研究は今後も継続・発展させていく必要性のあるものばかりであるため，研究に割く時間

を確保に向けて，取り組みを続けていく予定である。今後，運営交付金の中で使用できる研究費は次第に削減されることが予測されるため，他大学との共同研究の可能性も含め，競争的研究資金の獲得に向けた取り組みをしていく。

〔成人・老年看護学講座〕

（1）成人看護学分野（慢性期）

1. 研究の概要

臨床における看護の質の向上のために臨床で得られた知の科学的分析，さらに慢性看護学の学問の確立と発展に貢献できるよう研究に取り組んでいる。具体的には，1)慢性的な病を持ちながら生活する糖尿病患者の QOL，QOL の向上や再構築に求められる看護の理論的探索とそれに依拠する新たな理論開発，2)糖尿病患者の生活習慣改善行動に対する動機づけに関する研究，3）COPD 患者と家族の支援に関する研究，4)慢性心不全患者の自己管理に関する研究などである。

2. 名簿

教授：　足立久子　Hisako Adachi
助教：　岩屋早苗　Sanae Iwaya
助教：　柿田さおり　Saori kakita

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）
なし

総説（欧文）
なし

原著（和文）

1） 足立久子，岩崎淳子，小林和成．通院中の糖尿病患者の自己管理へのやる気に家族による支援，動機づけ要因，自己管理行動への主観的な総体的評価が与える影響，日本看護科学会誌　2015 年；35 巻：118－126.
2） 石黒千映子，生田美智子，東野督子，杉村鮎美，五島裕子，石田　咲，三河内憲子，「味覚」と「栄養」に着目した食生活についての健康教育の効果，日本赤十字豊田看護大学紀要　2015 年；10 巻：157－169.
3） 青木郁子，足立久子．糖尿病患者の家族のストレスに関する研究の展望，平成医療短期大学紀要 2016 年；9 号：36－42.
4） 足立久子，久松　香，飯沼奈穂．身体的自覚症状のある通院中の糖尿病患者の日々の生活の中で経験する楽しみの有無による QOL の相違，日本糖尿病教育・看護学会誌　2016 年；20 巻 2 号：175－181.
5） 道木恭子，小野敏子，土居悦子，野田洋子，足立久子．二分脊椎男性のセクシャアリティに関する調査報告，日本性科学会雑誌　2016 年；34 巻：67－70.
6） 青木郁子，足立久子．糖尿病患者の家族のストレス・コーピングを測定する尺度の検討，平成医療短期大学紀要 2017 年；10 号：31－41.

原著（欧文）
なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：小野敏子，研究分担者：足立久子，野田洋子，道木恭子，土居悦子；科学研究費補助金基盤研究(C)：二分脊椎児者のセクシャル／リプロダクティブヘルス／ライツ教育の実践と評価；平成 26－28 年度；4,160 千円(2,080：1,170：910 千円)
2）研究代表者：杉村鮎美；科学研究費助成事業(若手 B)：在宅における肺がん患者に対する呼吸困難ケアの実践促進要因；平成 27－29 年度；2,210 千円(780：780：650 千円)
3） 研究代表者：岩屋早苗,研究分担者：足立久子,柿田さおり；岐阜大学活性化経費(教育)：看護学初学

者に対する高度看護実践能力を持つ専門職への動機づけの強化；教養教育から専門科目へ学びをつなげるアクティブ・ラーナー育成の試み)；平成 28－29 年度；70 千円

4) 研究代表者：岩屋早苗；科学研究費助成事業(若手 B)：COPD 患者の病気の不確かさと療養生活および QOL との関連；平成 29－31 年度；1820 千円(650：650：520 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

足立久子：

1) 日本看護研究学会評議員(平成 25 年 4 月～現在)
2) 日本看護科学学会代議員(平成 27 年 2 月～現在)
3) 日本糖尿病教育・看護学会評議員(平成 28 年 9 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

足立久子：

1) 日本看護研究学会 第 43 回学術集会 (平成 29 年 8 月 30 日，愛知県 東海市,「慢性期看護に関する 4 演題」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

岩屋早苗

1) 愛知県内の高等学校への出前講義

10. 報告書

1) 石黒千映子，杉村鮎美，岩屋早苗，足立久子：岐阜大学活性化経費(教育)成果報告書：看護基礎教育における終末期ケアに関する教育　学生の死生観の醸成をめざして(平成 28 年 1 月)
2) 杉村鮎美：肺がん患者の呼吸困難に対するケア実践促進要因：平成 26 年度安田記念医学財団癌看護研究助成報告書(平成 27 年 12 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

・教育の質が低下することなく学生が主体的に授業，演習，臨地実習に臨めるよう，かなりの時間をかけ

て検討・準備をして，検討してきた。研究については，平成 28 年度に助教が代表者として学内の活性化経費（教育）を獲得した研究を学会にて報告をした。学会報告は多々行っているが，論文に至っていない点が問題である。

現状の問題点及びその対応策

・教員の構成は，助教２名と教授の３名である。指導を要する学生が増える中で，教育の質を低下することなく授業，演習，臨地実習等の教育活動を行う割合が益々高くなり，個々の研究，分野としての研究活動に取り組む時間の確保ができない状況であった。教育活動の内容の見直しや臨地実習における臨床側との連携を図りながら時間を調整し，研究活動（学会報告，投稿論文作成）の時間を確保できるよう取り組んでいきたい。

今後の展望

個々の研究の時間を確保し，学会報告と論文投稿を積極的に取り組んできたい。臨地実習等もあり，時間的に余裕がない状況であっても，海外での学会報告も計画していきたい。またさらに各自の研究あるいは分野で取り組んでいる研究を深め発展させ，継続的に活性化経費か，あるいは他の競争的資金の獲得を目指したい。

（2）成人看護学分野（急性期）

1. 研究の概要

成人看護学急性期分野では，看護学教育や看護実践に活かすことを目的とした研究を行っている。研究対象は手術を受ける患者と家族や救急・クリティカルケアを必要とする患者と家族，リハビリテーションを必要とする患者と家族，スポーツ等の運動を行う者など多岐にわたっており，広く家族・地域を含めた健康支援を考えるテーマに取り組んでいる。

主な研究テーマ

・成人急性期看護学講義・演習および実習における実践能力の育成と到達度に関する研究
・成人急性期看護における看護技術や教育方法に関する研究
・e-learning システムを使用した学習効果の検証に関する研究
・クリティカルケア領域における継続看護に関する研究
・継続教育とサポート体制に関する研究
・救急領域における意思決定支援に関する研究
・スポーツにおける看護師の役割に関する研究
・障害者スポーツの競技成立に関わる因子の研究
・骨軟部腫瘍術後の四肢障害者のリハビリテーションに関する研究
・上肢障害者のリハビリテーション機器の効果判定
・スポーツ外傷・スポーツ障害に関する研究

2. 名簿

教授：	西本　裕	Yutaka	Nishimoto
教授：	髙橋　由起子	Yukiko	Takahashi
助教：	三枝　聖美	Kiyomi	Mieda
助教：	阿部　誠人	Nobuto	Abe

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 西本裕，大野貴敏，杉山潤子，村瀬妙子．悪性骨・軟部腫瘍の手術．　金森昌彦編．手術ナーシング第 4 巻 第 2 号，特集「整形外科での器械出し」，東京：医学出版；2017 年：88－95.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1） 永野昭仁，大野貴敏，西本　裕，秋山治彦．Extrapleural solitary fibrous tumor の治療成績，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2015 年；58 巻：1055－1056.
2） 永野昭仁，大野貴敏，西本　裕，秋山治彦，宮崎龍彦，酒々井夏子，齋郷智恵美，小林一博．右大腿骨骨腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2015 年；27 巻：25－26.
3） 髙橋由起子，松田好美，伊藤美智子，林　瑞穂，西本　裕，三好美浩，梶間和枝，林久美子．クリティカルケア看護に関する講演会に参加した看護師の参加動機と興味領域，岐阜看護研究会誌　2015 年；7 巻：11－21.
4） 宮川瑞穂，髙橋由起子，臼井かおり，松田好美．術後室の準備に関する演習レポート内容の分析，岐阜看護研究会誌 2016 年；8 巻：45－52.
5） 髙橋由起子，宮川瑞穂，臼井かおり，松田好美．学習支援システムへのアクセス方法の違いによる学習満足の比較，岐阜看護研究会誌 2016 年；8 巻：53－64.
6） 臼井かおり，髙橋由起子，宮川瑞穂．ドレーン固定疑似体験後の学びのレポート内容の分析，岐阜県看護学会論文集 2016 年；3 巻：1－4.

7） 近藤邦代，林久美子，髙橋由起子，三品弘司．看護学生と理学療法学生の喫煙に関する意識の比較，日本看護学会論文集 2016 年；46 巻：168－171.
8） 髙橋由起子，宮川瑞穂，臼井かおり,伊藤美智子，笹岡沙也加，中村光浩，西本裕．テキストマイニングによるドレーン固定疑似体験後の学びのレポート分析，日本医療情報学会看護学術大会論文集 2016 年；17 巻：143－146.
9） 永野 昭仁，石丸 大地，大野 貴敏，西本 裕，秋山 治彦．当科における軟部肉腫の治療成績，中部日本整形外科災害外科学会雑誌 2016 年；59 巻：569－570.
10） 纐纈朋弥，石原多佳子，西本裕，小林和成，山崎仁朗，髙木和美，大野ゆう子．IT 機器を介した高齢者地域見守りモデル事業導入時の課題，日本早期認知症学会誌 2016 年；9 巻：43－48.
11） 髙橋由起子，宮川瑞穂，臼井かおり,林久美子.クリティカルケア看護に関する講演会に参加した看護師・看護教員・看護学生の参加満足に関する比較，日本看護学会論文集 2017 年；47 巻：139－142.
12） 篠田成郎，今井亜湖，仲田久美子，神谷宗明，肥後睦輝，西村貢，西本裕，髙橋由起子，田中雅宏，山口忠，加藤正吾，西津貴久，松原正也．課外学習における AIMS-Gifu 活用効果に関する分析，岐阜大学教育推進・学生支援機構年報　2017 年；3 巻：131－143.

原著（欧文）
1） Akihito Nagano, Takatoshi Ohno, Koji Oshima, Daichi Ishimaru, Yutaka Nishimoto, Yoshiyuki Ohno, Akihiro Hirakawa, Tatsuhiko Miyazaki, and Haruhiko Akiyama.　Metastatic Prostate Cancer of Hand, Case Reports in Orthopedics 2016;2016:1472932.
2） Itami T, Yabunaka T, Yano K, Kobayashi Y, Aoki T, Nishimoto Y.　Development of self support device and control for operating the wheelchair for upper limb disabled persons, Proceedings of the 13th International Conference on Informatics in Control, Automation and Robotics 2016;2016:466-471.
3） Nagano A, Ishimaru D, Nishimoto Y, Akiyama H, Kawai A. Primary bone sarcomas in patients over 40 years of age: A retrospective study using data from the Bone Tumor Registry of Japan. J. Orthop. Sci., 2017;22(4):749-751.　CS　1.38
4） Shiori Hasegawa, Toshinobu Matsui, Yuuki Hane, Haruna Hatahira, Junko Abe, Yumi Motooka, Sayaka Sasaoka, Akiho Fukuda, Misa Naganuma, Kouseki Hirade, Yukiko Takahashi, Yasutomi Kinosada, Mitsuhiro Nakamura. Thromboembolic adverse event study of combined estrogen-progestin preparations using Japanese Adverse Drug Event Report database, PLoS ONE 2017; 12(7): e0182045.

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：髙橋由起子；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：急性期看護教育に関するモチベーション強化のための e ラーニングシステムの構築と評価；平成 27－29 年度；2,470 千円(910：910：650 千円)
2） 研究代表者：髙橋由起子，研究分担者：松田好美，西本　裕，宮川瑞穂，臼井かおり，林久美子，松宮良子，安藤祐子，吉川郁子，栗原成郎；岐阜大学技術交流研究会：Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 27 年度；100 千円
3） 研究代表者：髙橋由起子，研究分担者：宮川瑞穂，臼井かおり，松田好美，西本　裕；大学活性化経費(教育)：基盤的能力の育成を目指す教育プログラム：クリティカルケア領域におけるフィジカルアセスメント能力の強化プログラム；平成 27 年度；400 千円
4） 研究代表者：髙橋由起子，研究分担者：西本　裕，伊藤美智子，宮川瑞穂，臼井かおり，林久美子，岩崎淳子，松宮良子，安藤祐子，吉川郁子；岐阜大学技術交流研究会：Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 28 年度；100 千円
5） 研究代表者：髙橋由起子，研究分担者：西本　裕，三枝聖美，林久美子，名和祥子，岩崎淳子，松宮良子，安藤祐子，吉川郁子，長屋幸子，後藤紀久，阿部誠人；岐阜大学技術交流研究会：Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 29 年度；100 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

6. 学会活動

1）学会役員

西本　裕：

1） 日本整形外科学会代議員(平成 23 年 3 月～現在)
2） 中部日本整形外科災害外科学会評議員(平成 9 年 10 月～現在)
3） 日本整形外科学会安全医療推進委員会委員(平成 29 年～現在)

松田好美：

1） 日本看護学教育学会評議員(～平成 28 年 3 月)
2） 日本看護診断学会評議員(～平成 28 年 3 月)

髙橋由起子：

1） 岐阜県看護学会副委員長(平成 25 年 6 月～平成 29 年 6 月)
2） 岐阜県学術集会(第 48 回日本看護学会急性期)準備委員会委員長(平成 27 年 9 月 24 日～平成 29 年 9 月 30 日)
3） 岐阜県看護協会研究倫理審査委員(平成 26 年 6 月～現在)
4） 日本看護学教育学会評議員(平成 28 年 2 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

髙橋由起子：

1） 第 4 回岐阜看護学会(平成 27 年 12 月，岐阜，特別講演「こころ元気に看護するには」座長)
2） 第 48 回日本看護学会急性期看護学術集会(平成 29 年 9 月，岐阜，基調講演「急性期看護が見据える先」座長)

西本　裕：

1） 第 55 回岐阜県学校保健研究大会　記念講演「小中学校の運動器検診の現状と課題」(平成 28 年 10 月 23 日)
2） 日本柔道整復師会第 51 回東海学術大会　岐阜大会　特別講演「フレイルの予防・改善－健康行動への働きかけ－」(平成 28 年 11 月 6 日)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

西本　裕：

1） 岐阜県社会保険診療報酬支払基金診療報酬請求審査委員会委員(～現在)
2） 岐阜労働局労災保険診療協議会委員(～現在)
3） 岐阜県国民健康保険等柔道整復療養費審査委員会委員(平成 24 年 4 月～現在)
4） 岐阜県体育協会スポーツ医科学協議会委員(平成 25 年 4 月～現在)
5） 岐阜市松籟団地自主防災隊(平成 25 年 4 月～現在)
6） 岐阜県体育協会理事(平成 25 年 6 月～現在)
7） 岐阜県スポーツ推進審議会委員(平成 26 年 10 月～現在)
8） 岐阜県体育協会スポーツ診療所管理者(平成 27 年 4 月 1 日～現在)
9） 岐阜県スポーツドクター協議会副会長(平成 28 年 9 月～現在)
10） 第 15 回中部テコンドー選手権大会救護(平成 27 年 3 月 29 日)

11） 第 5 回岐阜市民空手道競技大会救護(平成 27 年 9 月 21 日)
12） 第 70 回国民体育大会 2015 紀の国わかやま国体 岐阜県選手団総務(平成 27 年 9 月 25-27 日)
13） 平成 27 年度岐阜県高等学校空手道新人大会救護(平成 27 年 10 月 10 日)
14） 第 64 回岐阜市総合体育大会空手道競技救護(平成 27 年 10 月 12 日)
15） 第 36 回全日本マスターズ陸上競技選手権大会救護(平成 27 年 10 月 31 日)
16） 平成 27 年度岐阜県高等学校新人戦大会ボクシング競技救護(平成 27 年 11 月 1 日)
17） 第 22 回アジアテコンドー選手権大会プムセ競技日本代表選手選考会救護(平成 28 年 3 月 21 日)
18） 第 64 回岐阜県高等学校総合体育大会 空手道競技救護（平成 28 年 5 月 7 日）
19） 第 63 回東海高校総合体育大会ボクシング競技・第 3 回全日本 UJ 決定戦王座東海予選会救護(平成 28 年 6 月 19 日)
20） 第 9 回岐阜県民スポーツ大会　空手道競技救護(平成 28 年 9 月 18 日)
21） 第 71 回国民体育大会 2016 希望郷いわて国体 岐阜県選手団総務(平成 28 年 10 月 1, 2 日)
22） 第 29 回いびがわマラソン救護(平成 28 年 11 月 13 日)
23） 第 65 回岐阜県高等学校総合体育大会 空手道競技 救護(平成 29 年 5 月 14 日)
24） 第 37 回岐阜市民空手道競技大会 救護(平成 29 年 7 月 2 日)
25） 第 72 回国民体育大会 2017 愛顔つなぐえひめ国体 岐阜県選手団 総務(平成 29 年 9 月 29,30 日)
26） 第 22 回長良川ふれあいマラソン 救護(平成 29 年 10 月 1 日)
27） 平成 29 年度岐阜県高等学校空手道新人大会 救護(平成 29 年 10 月 14 日)
28） 第 30 回いびがわマラソン 救護(平成 29 年 11 月 12 日)

髙橋由起子
1） 岐阜県教員免許更新講習(平成 29 年 8 月，岐阜，「外傷予防と救急時の初期対応」)

三枝聖美
1） 岐阜県教員免許更新講習(平成 29 年 8 月，岐阜，「外傷予防と救急時の初期対応」)

学会以外の研修会講師，招待講演

西本　裕：
1） 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会「スポーツ指導者に必要な医学的知識」(平成 27 年 5 月 30 日)
2） 岐阜県ドーピング防止研修会「ドーピングを犯さないために」(平成 27 年 6 月 27 日)
3） 日本体育協会公認指導員・上級指導員養成講習会(軟式野球)「ドーピング防止活動」(平成 27 年 10 月 25 日)
4） 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会「スポーツ指導者に必要な医学的知識」(平成 28 年 6 月 11 日)
5） 岐阜県ドーピング防止研修会「ドーピングを犯さないために」(平成 28 年 6 月 25 日)
6） 羽島郡スポーツ少年団認定員養成講習会「スポーツ指導者に必要な医学的知識」(平成 29 年 6 月 3 日)
7） 岐阜県ドーピング防止研修会「ドーピングを犯さないために」(平成 29 年 7 月 1 日)

10. 報告書

1） 髙橋由起子，宮川瑞穂，臼井かおり，松田好美，西本裕：クリティカルケア領域におけるフィジカルアセスメント能力の強化プログラム：平成 27 年度大学活性化経費(教育)基盤的能力の育成を目指す教育プログラム　総括　報告書 1－4(平成 28 年 2 月)

11. 報道

西本　裕：児童生徒のけが，密に共有(研究室から大学はいま)：岐阜新聞(2017 年 8 月 29 日)

12. 自己評価

評価

・成人急性期看護学分野の 4 名の教員で，教員各々が主要なテーマを持ち，分野全体で協力しながら研

究を実践している。研究業績については，少ないながらも，毎年少しずつ増えている。今年度助教が新たに 2 名着任となり，急性期分野は新体制でのスタートとなった。新体制になり，若手教員の育成にも力を入れながら，教育及び研究活動を行っているが，教育とりわけ臨床実習指導に占める時間的割合が多くなっている。新体制での研究基盤を作り上げ，分野全体とし研究に取り組める体制を作っていく必要がある。

・競争的資金として，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)1 件，大学活性化経費(教育)1 件，岐阜大学技術交流研究会からの助成を 3 件獲得している。競争的研究資金の獲得とともに，分野として取り組める研究を勧めていきたい。

現状の問題点およびその対策

・教育活動に主眼を置き，研究活動の時間確保が難しいのは例年通りである。それに加えて今年度は 2 名の助教が新任であったため，教員の育成にも力を入れており，論文執筆等の時間の確保が難しい状況であった。

・若手研究員の研究力向上を図り，各々の新体制を生かした研究体制の構築を行いたい。

・競争的研究資金を継続して獲得していけるよう，分野全体としての研究費の獲得に向けて，共通性ある研究テーマを推進するとともに，分野全体としての教育力・研究力の底上げを行っていく。

今後の展望

・教員各自が研究テーマを持ち，各々の専門性を生かしながら，分野として共通テーマに沿った研究を推進していく予定である。

・教育の質保証ができるよう，教員一人一人の教育力の向上・教育方法等の工夫を重ね，教育面の充実を図る。

・急性期分野では継続的にクリティカルケア領域に関する知識の普及・情報発信・情報交流を行っている。広い視野を持ち研究活動，社会貢献することを目指し，活動を継続していく。

（3）老年看護学分野

1. 研究の概要

老年看護学分野では，高齢者の QOL を維持･向上するためにその「持てる力」を重視し，「その人らしい生活の維持」を目指したケアに関する研究を行ってきた。特に，認知症を有する高齢者ケアに関する研究は，介護施設における認知症ケアばかりでなく，一般病院における認知症ケアをどう進めていったらよいのか明らかにしようと取り組んでいる。

主な研究テーマ

・医療現場における認知症高齢者の「持てる力」を活用したチームケアのあり方
・認知症高齢者を抱える家族と看護師の連携のあり方
・認知症高齢者に対するシームレスケア実践力尺度の開発と職務行動遂行能力との関連
・特別養護老人ホームにおける職場環境評価尺度の開発と組織コミットメントとの関連

2. 名簿

教授：	松波　美紀	Miki Matsunami
准教授：	小木曽　加奈子	Kanako Ogiso
助教：	小島　愛子	Aiko Kojima
助教：	温水　理佳	Rika Nukumizu
助教：	吉川　美保	Miho Yoshikawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 阿部隆春，安藤邑惠，今井七重，緒形明美，小木曽加奈子，佐藤八千子，柴田由美子，鈴木俊文，高野晃伸，棚橋千弥子，田村禎章，樋田小百合，中谷こずえ，祢宜佐統美，彦坂　亮，平澤泰子，森由香子，山下科子，渡邊美幸．小木曽加奈子編．高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス　初版，東京：学文社；2015 年：55－169.
2） 今井七重，宮嶋淳，小木曽加奈子，棚橋千弥子，柴田由美子，祢宜佐統美，大井智香子，大藪元康，田村禎章，佐藤八千子．宮嶋淳，小木曽加奈子，大井智香子，大藪元康，田村禎章編．地方都市「消滅」を乗り越える～岐阜県山県市からの提言～，初版，東京：中央法規出版；2016 年：154－167, 242－249.
3） 安藤邑惠，今井七重，小木曽加奈子，高木剛，林由美子，平澤泰子，古田弥生，祢宜佐統美，真木明子．平澤泰子，小木曽加奈子編．介護職のための医療的ケアの知識と技術；ポートフォリオを活用して自らの成長を育む　初版，東京：学文社；2016 年：10－16,52－112, 135－149.
4） 小木曽加奈子監修．介護の救急対応　初版，東京：成美堂出版；2016 年：1－191.

著書（欧文）

なし

原著（和文）

1） 小木曽加奈子，今井七重，佐藤八千子．ケア実践者が認識する認知症高齢者のその人らしさを大切にした関わり；介護老人保健施設の看護職と介護職に着目をして，日本看護福祉学会誌　2015 年；20 巻(No. 2)：31－44.
2） 小木曽加奈子，平澤泰子．バーンアウトと認知症高齢者に対する環境を整えるケアとの関係；介護老人保健施設の看護職と介護職の違いに着目した教育支援，教育医学会誌　2015 年；60 巻(No. 4)：179－187.
3） 小木曽加奈子，佐藤八千子，平澤泰子，山下科子，今井七重，樋田小百合，祢宜佐統美．認知症高齢者の BPSD に向き合える力を育むためのケアスタッフの教育に向けて；介護老人保健施設における BPSD サポート尺度簡略版を用いたフィールド調査から，教育医学会誌　2015 年；60 巻(No. 4)：221－231.
4） 小木曽加奈子，祢宜佐統美，佐藤八千子．認知症高齢者の BPSD とケア実践者の認知症ケアに対する充実感と自信の関係；ケア実践者が認識する困難に感じる 4 領域 BPSD とよい反応が得られたケアの指標からの検討，中部社会福祉学研究誌　2015 年；6 号：1－14.
5） 小木曽加奈子，平澤泰子．介護老人保健施設のケアスタッフが認知症高齢者との関わりで心掛けていること；ユマニチュードからの考察，社会福祉科学研究誌　2015 年；4 号：55－61.
6） 小木曽加奈子，平澤泰子．ケア実践者の基本属性による認知症高齢者の BPSD の認識の違い；介護老人保健施設における BPSD サポート尺度簡略版を用いた検討，愛知高齢者福祉研究会誌　2015 年；2 号：47－56.
7） 平澤泰子，阿部隆春，小木曽加奈子．介護福祉士養成課程における医療的ケアの修得状況と修得項目間の関係；初めての介護実習における学び，教育医学会誌　2015 年；61 巻(No. 2)：206－216.
8） 小木曽加奈子，平澤泰子．認知症高齢者の BPSD に対するケアの指標の課題，福祉図書文献研究誌　2015

年；14 号：33－42.
9) 小木曽加奈子, 安藤邑惠, 平澤泰子, 山下科子, 祢宜佐統美, 佐藤八千子, 阿部隆春, 今井七重. 認知症高齢者の「不潔行為」の現状と対応方法；看護職と介護職の捉え方の違いに着目をして, 地域福祉サイエンス誌　2015 年；2 号：15－24.
10) 樋田小百合, 松波美紀, 介護老人保健施設で看取りケアを体験したケア実践者の思い, 日本看護福祉学会誌　2015 年；20 巻(No. 2)：181－195.
11) 小木曽加奈子, 平澤泰子. BPSD がある認知症高齢者ケアに対する ICF の環境因子からの検討；そのひとらしさを大切にするケアの認識において, 日本看護福祉学会誌　2016 年；21 巻(No. 2)：1－13.
12) 小木曽加奈子, 佐藤八千子, 今井七重. 介護老人保健施設のケアスタッフにおける認知症高齢者ケアの充実感に対する認識, 人間福祉学　2016 年；15 巻(No. 1)：23－30.
13) 日置実香, 尾藤美由紀, 小木曽加奈子, 今井七重. 訪問看護師が実践している終末期ケア；エンド・オブ・ライフケアの視点からの分析, 第 45 回日本看護学会論文集-在宅看護-　2016 年；45 号：15－18.
14) 小木曽加奈子, 山下科子, 佐藤八千子, 平澤泰子, 祢宜佐統美, 樋田小百合, 今井七重. BPSD サポート尺度簡略版による認知症高齢者の日々の変化；ひとり一人の傾向に着目して, 社会福祉科学研究　2016 年；5 号：1－10.
15) 角谷あゆみ, 祢宜佐統美, 小木曽加奈子, 渡邊美幸, 樋田小百合. 特別養護老人ホームでの終末期ケアを実践する力を育むためのスタッフ教育のあり方, 社会福祉科学研究　2016 年；5 号：277－286.
16) 小木曽加奈子, 祢宜佐統美, 樋田小百合, 渡邊美幸, 角谷あゆみ. 特別養護老人ホームのケアスタッフの死生観の現状, 地域福祉サイエンス　2016 年；3 号：49－55.
17) 小木曽加奈子, 安藤邑惠, 今井七重, 緒形明美, 佐藤八千子, 高野晃伸, 田村禎章, 樋田小百合, 中谷こずえ, 祢宜佐統美, 彦坂亮, 平澤泰子, 山下科子, 渡邊美幸. 高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス, 福祉図書文献研究　2016 年；15 号：91－96.
18) 宮嶋淳, 小木曽加奈子, 田村禎章, 今井七重. 地方都市「消滅」を乗り越える！－G 県Y 市からの提言－, 福祉図書文献研究　2016 年；15 号：85－90.
19) 樋田小百合, 松波美紀. 介護老人保健施設で働く看護職・介護職の看取りケアにおける受け入れの実態とその思い, 岐阜看護研究会誌　2016 年；8 号：1－12.
20) 野中恵美, 温水理佳, 松波美紀. 一般病棟における PNS(パートナーシップナーシングシステム)導入後の実態, 岐阜看護学会論文集　2015 年；3 号：17－20.
21) 小木曽加奈子. 介護老人保健施設の看護職における ICF の視点を活かした認知症ケアの実践, 教育医学 2017 年；62 巻(No. 3)：368－377.
22) 樋田小百合, 祢宜佐統美, 小木曽加奈子, 渡邊美幸, 佐藤八千子, 角谷あゆみ. 特別養護老人ホームで働くケア実践者の看取りケアに対する不安の実態, 教育医学　2017 年；62 巻(No. 2)：385－391.
23) 小木曽加奈子, 祢宜佐統美, 今井七重, 安藤邑惠. 介護老人保健施設における職務環境改善に関する認識の内容分析, 日本医療・病院管理学会　2017 年；54 巻(No. 2)：57－66.
24) 小木曽加奈子, 樋田小百合, 今井七重, 安藤邑惠. 介護老人保健施設の看護職と介護職の職務満足についての検討, 日本看護研究学会会誌　2017 年；40 巻(No. 2)：137－146.
25) 緒形明美, 小木曽加奈子, 曾田信子. 介護老人福祉施設における施設管理責任者の人材定着に対する取り組み, 教育医学　2017 年；62 巻(No. 2)：195－203.
26) 小木曽加奈子, 樋田小百合, 佐藤八千子, 祢宜佐統美, 平澤泰子, 山下科子. 介護職簡略版認知症ケア尺度の信頼性と妥当性の検証, 日本看護福祉学会誌　2017 年；22 巻(No. 2)：45－56.
27) 鷲見みづほ, 日置実香, 小木曽加奈子, 今井七重. 介護付き有料老人ホームにより入院となり同施設へ戻る場合の利用者の家族の思い, 第 47 回日本看護学会論文集-在宅看護-　2017 年；47 号：11－14.
28) 小木曽加奈子, 祢宜佐統美, 介護老人保健施設の認知症高齢者に対する【見る】【話す】【触れる】【立つ】の実践, 福祉と看護の研究誌　2017 年；4 号：68－76.
29) 小木曽加奈子, 介護職の職務満足度と認知症ケアの実践；介護老人保健施設の介護職版職務満足度評価尺度と BPSD サポート尺度を用いた検討, 福祉図書文献研究　2017 年；16 号：45－56.
30) 渡邊美幸, 小木曽加奈子, 樋田小百合. 介護老人保健施設の看護職が認識する高齢入所者のもてる力の現状, 福祉と看護の研究誌　2017 年；4 号：77－85.

原著（欧文）
1) Ogiso K,. Verification of the Validity and Reliability of Care Outcomes of Dementia；Investigation by Support Standards for the Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia, The Journal of Education and Health Science. 2016;62(2):313-327.
2) Masumi Kumada、Miki Matsunami；Gap　in perception regarding recovery between patients and nurses in recovery-stage rehabilitation ward, Personalized Medicine Universe.2017;6:34-35.

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：緒形明美, 研究分担者：小木曽加奈子；科学研究費補助金基盤研究(C)：特別養護老人ホームにおける職場環境評価尺度の開発と組織コミットメントとの関連；平成 27－30 年度；3,600 千円(1,300：1,200：500：600 千円)

2） 研究代表者：魚住忠司, 研究分担者：Tailored Design 研究分科会　松波美紀；平成 27 年度ぎふ技術革新センター運営協議会共同研究助成事業助成金：自動車用途、介護用途、スポーツ用具用途に向けた組物 CFRP パイプの力学的特性、動的特性に関する研究；平成 27 年度；190 千円
3） 研究代表者：小木曽加奈子；科学研究費補助金基盤研究(C)：認知症高齢者に対するシームレスケア実践力尺度の開発と職務行動遂行能力との関連；平成 28－31 年度；3,700 千円(500：1,400：800：1,000 千円)
4） 研究代表者：温水理佳, 研究分担者：松波美紀, 住若智子；平成 28 年度岐阜大学 COC「地域志向学プロジェクト」(プロジェクト A(高齢社会))：認知症のある高齢患者と家族が安心して看護を受けられる地位金ネットワークづくりに向けた研究：平成 28 年度；650 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6 学会活動

1）学会役員

松波美紀：

1） 日本老年看護学会第 22 回学術集会企画委員(平成 27 年 12 月～平成 29 年 7 月)

小木曽加奈子：

1） 日本教育医学学会評議員及び会計幹事(平成 27 年 8 月～平成 29 年 8 月)
2） 日本教育医学学会理事及び編集幹事(平成 29 年 8 月～現在に至る)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演,招待シンポジスト,座長

1） 日本老年看護学会第 22 回学術集会　実践ミニセミナー2：老年看護実践に活かすアドバンスケアプランニング 座長(平成 29 年 6 月 15 日, 名古屋国際会議場)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

1） 祢宜佐統美, 小木曽加奈子：特別養護老人ホームにおける終末期ケアに関する研修プログラム：平成 25－28 年度科学研究費補助金基盤研究(C)　研修プログラム：1－128(平成 27 年 3 月)
2） 小木曽加奈子：BPSD サポート尺度によるケアアウトカムと認知症ケア充実感と職務満足と離職意向の関係：平成 24－27 年度科学研究費補助金基盤研究(C)：1－245, 1－56(平成 28 年 3 月)
3） 温水理佳：認知症のある高齢患者と家族が安心して看護を受けられる地域ネットワークづくりに向けた研究：岐阜大学 COC「地域志向学プロジェクト」成果報告書　平成 28(2016)年度：6－9(平成 29 年 12 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

看護学教育において老年看護学分野が担う部分は，実習時間数等，他分野に比較すると多い。また超高齢社会という背景の中で，地域一般に向けた教育などの社会的活動の要請も多い。3 年間，本分野の構成員の異動・欠員がある中，看護学科の運営に係る諸活動，老年看護学分野における教育活動を中心にして，教育および研究に充実した活動ができたと評価する。老年看護学分野で取り組んでいる認知症を有する高齢者ケアに関する研究は，医療現場における研究課題，介護施設における研究課題と 2 つの側面から取り組み，それぞれの研究で科学研究費補助金も獲得できている。これらの研究は，地域の医療現場，介護現場で働く看護・介護職との連携なしで行えるものではなく，協働研究として順調に進めることができている。また，研究活動の成果を少しずつであるが，教育にも反映させることができている。

現状の問題点及びその対応策

欠員教員の確保に務め，構成員が教育活動，研究活動に十分取り組める環境を整えていく必要がある。また，これまでの課題（研究と教育に費やす時間配分のバランスの悪さ，教員の取組状況の差）については解決できていない現状がある。教員は，自己の能力を見極め，老年看護学分野が担っている教育活動全般を見直し，その内容に応じた個々の役割を認識することが必要である。

現在取り組んでいる研究課題は，いずれも重要で意義深い内容ばかりである。学会での公表等は随時できているが，学会誌やサイトスコアの高い雑誌への論文投稿を実現させていく必要がある。

今後の展望

今後数年間は，組織の改編，構成員の異動が続く。その中で高齢者に関する課題は複雑に増加する一方である。看護基礎教育の中で，これからの超高齢社会の中で看護を実践していく学生への教育には何が必要なのか，教育内容の精選を吟味しながら進めていく必要がある。

今回，大学の地域志向学プロジェクトの取組にも参加し，高齢社会の課題解決のための活動も実施した。引き続き，このような活動は継続的に行い，地域での高齢者や認知症の理解を高めていきたい。

〔地域・精神看護学講座〕

（1）地域看護学分野

1. 研究の概要

地域看護学分野においては，地域保健，産業保健，学校保健等の公衆衛生看護分野における研究と訪問看護に関する在宅医療看護分野の研究が行われている。さらに近年では福祉分野にも関連する研究にも幅を広げている。いずれの研究も，現場の課題に着目した研究テーマが多く，その成果は，公衆衛生や在宅看護，保健，福祉の現場に還元されるものである。研究方法は，広く公衆衛生学・疫学及び看護学の研究手法を用いている研究が多い。具体的な研究テーマとしては，で地域における妊産婦の禁煙サポートをはじめ， IT を活用した独居高齢者の見守りに関する研究，移動販売利用者の健康に関する研究，青少年の薬物や飲酒に関する研究，高齢者の虐待予防に関する研究，介護予防に関する研究など多岐にわたっている。対象者も保健師や看護師など専門職を対象とした調査，地域住民，高齢者，学生などさまざまな年齢層を対象としている。

このように，地域看護学分野における研究は，あらゆる年代の人々を対象として，健康増進から疾病予防，社会復帰にいたる多様な健康レベルの人々とそれに係る公衆衛生分野の専門職に関する研究など，多彩な研究がなされている。

＜主な研究テーマ＞

1）保健師教育に関する研究
2）高齢者虐待予防に関する研究
3）青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用とライフスタイルの関連性についての研究
4）地域における妊産婦の禁煙サポートに関する研究
5）KDB システムを活用した研究
6）現任訪問看護師教育に関する研究
7）高齢者の介護予防に関する研究
8）IT を活用した独居高齢者の見守りに関する研究

2. 名簿

教授：	石原多佳子	Takako Ishihara
准教授：	三好美浩	Yoshihiro Miyoshi
准教授：	纐纈朋弥	Tomomi Kouketsu
准教授：	小林和成	Kazunari Kobayashi
助教：	玉置真理子	Marjko　Tamaoki
助教：	田中健太郎	Kentaro Tanaka

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 石原多佳子，荒賀直子(分担執筆)．後閑容子編集，公衆衛生看護学.jp 第 4 版，インターメディカル；2015 年：320－337, 393－401.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 田中健太郎．移動販売車の利用と地域住民の健康との関連分析について．月刊「地域ケアリング」, 2017 年；19(13)巻：92－95.
2） 小林和成．ソーシャル・キャピタルを活用した男性高齢者向けの介護予防教具・評価尺度の開発，月刊「地域ケアリング」, 2017 年；19(10)巻：72－75.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1） 天野菜穂子，大平邦子，石原多佳子，宮本正一．養護教諭の為の教職実践演習の効果と課題，教師教育研究 2015 年；第 11 号：63－71.

2) 森　礼子，後閑容子，石原多佳子．ウオーキング自主グループ活動の現状と支援する保健師の今後の課題，岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要　2015 年；第 47 集：49－60.
3) 馬淵仁美，石原多佳子，小林和成．居宅支援事業所の介護支援専門員と地域包括支援センター職員との高齢者虐待に関する認識の比較，高齢者虐待防止研究　2015 年；11 巻(No.1)：95－104.
4) 池上由美子，後閑容子，石原多佳子．保健所の精神保健福祉業務担当保健師が能力の不足感を抱える業務内容，日本地域看護学会誌　2015 年；18 巻(No.1)：110－117.
5) 道林千賀子，小林和成，石原多佳子．行政機関に所属する保健師の事業・社会資源の創出にかかるコンピテンシーの現状，岐阜看護研究誌　2015 年；7 巻：23－38.
6) 小島ひとみ，纐纈朋弥，小林和成，石原多佳子．妊産婦及びパートナーの禁煙サポートに対する専門職の認識，岐阜看護研究誌　2015 年；7 巻：39－48.
7) 足立久子，岩崎淳子，小林和成．通院中の糖尿病患者の自己管理へのやる気に家族による支援，動機づけ要因　自己管理行動への主観的な総体的評価が与える影響，日本看護科学会誌　2015 年；35 巻：118－126.
8) 山之腰由香，野崎加世子，中川奈緒美，中川みのり，本間由佳里，小林和成，纐纈朋弥，小島ひとみ，玉置真理子，石原多佳子．新任時期の訪問看護師教育に関する評価表の試行-管理者と新任者評価の比較を通して-，第 2 回岐阜看護学会論文集　2015 年；5－8.
9) 小林和成，纐纈朋弥，小島ひとみ，玉置真理子，石原多佳子．小規模多機能型ホーム利用に伴う主介護者の「行動」の特徴，第 2 回岐阜看護学会論文集　2015 年；1－4.
10) 三好美浩，勝野眞吾，和田 清．全国高校生における薬物乱用と関連する共通のライフスタイル－2004 年，2006 年，2009 年 JSPAD 調査の結合サンプルからの発見－，日本アルコール・薬物医学会雑誌　2016 年；51 巻(No.2)：118－138.
11) 三好美浩，勝野眞吾，西岡伸紀，和田 清．全体，性別，学年別からみた高校生における飲酒の理由－探索的研究－，日本アルコール・薬物医学会雑誌　2016 年；51 巻(No.5)：302－322.
12) 纐纈朋弥，石原多佳子，西本裕，小林和成，山崎仁朗，高木和美，大野ゆう子．IT 機器を介した高齢者地域見守りモデル事業導入時の課題，日本早期認知症学会誌　2016 年；43－48.
13) 在留フィリッピン人女性の健康状態と保健行動から見える健康課題，森礼子，古澤洋子，石原多佳子，後閑容子．岐阜聖徳学園短期大学部紀要　2016 年　第 48 集；85－98.
14) 大西理恵，後閑容子，石原多佳子.中壮年期のソーシャルキャピタルの構成要素と地域共生意識との関連，日本公衆衛生看護学会　2016 年；5 巻 1 号：37－46.
15) 原頼子，石原多佳子，後閑容子.熟練訪問看護師のキャリア発達の特徴，日本在宅看護学会　2016 年 5 巻 1 号：134－141.
16) 石原多佳子，表志津子，小林和成，纐纈朋弥.高齢者虐待回避のために施設入所に至った介護者の心情とその支援　高齢者虐待防止研究　2016 年；12 巻 1 号：78－85.
17) 三好美浩(in press)18 歳から 22 歳の日本の若者における飲酒理由に関する確認的研究－2016 年 JYPAD 調査からの結果－，日本アルコール・薬物医学会雑誌　2017 年；52 巻(No.6)：264－286.
18) 山之内 理紗，大村 佳代子，田中 健太郎，尾形 宗士郎，田中 晴佳，大阪大学ツインリサーチグループ，神出 計．嚥下体操のアドヒアランスにおける遺伝寄与率：双生児研究．日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌 2017 年；21(3)巻：173－180.
19) 道林千賀子，小林和成，石原多佳子．中堅期以上の自治体の保健師の事業・社会資源の創出に関するコンピテンシーと実践上の困難との関連，民族衛生　2017 年；83(1)巻：13－25.

著者
なし

原著（欧文）
1) Tanaka K, Ogata S, Tanaka H, Omura K, Honda C, Osaka Twin Research Group, Hayakawa K. The relationship between body mass index and uric acid: a study on Japanese adult twins. Environ Health Prev Med. 2015 Sep; 20(5):347-353.　CS　1.31

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：三好美浩，研究分担者：勝野眞吾，西岡伸紀，若杉里実；科学研究費補助金基盤研究(B)一般：青少年の危険ドラッグを含む薬物乱用の実態とライフスタイルに関するモニタリング研究；平成 27－30 年度；12,300 千円(4,100：2,100：3,900：2,200 千円)
2) 研究代表者：石原多佳子，研究分担者：纐纈朋弥，小林和成，後閑容子，表志津子；科学研究費補助金挑戦的萌芽研究：高齢者虐待における虐待者と被虐待者分離後の支援プログラムの開発；平成 25－27 年度；2,900 千円(700：1,200：1,000 千円)
3) 研究代表者：纐纈朋弥，研究分担者：小林和成，石原多佳子，後閑容子，野田洋子；科学研究費補助金基盤研究(C)：地域介入による妊産婦とパートナーを対象とした禁煙サポートプログラムの効果の検証；平成 26－29 年度；4,810 千円(1,170：1,430：1,040：1,170 千円)

4) 研究代表者：田中健太郎，研究分担者：石原多佳子，纐纈朋弥，小林和成，玉置真理子，和田美江子，中川奈緒美；文部科学省大学 COC 事業(岐阜大学)平成 27 年度地域志向学プロジェクト(研究プロジェクト A【高齢社会】)：過疎地域における食品購入方法の違いと健康問題との関連分析；平成 27 年度；700 千円
5) 研究代表者：小林和成，研究分担者：石原多佳子，纐纈朋弥，玉置真理子；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：ソーシャル・キャピタルを活用した男性高齢者向けの介護予防教具・評価尺度の開発；平成 27－29 年度；2,400 千円(600：600：600 千円)
6) 研究代表者：小林和成，岐阜大学 COC「地域志向学プロジェクト」(地域志向教育プロジェクト)：地域における看護活動の初期体験学習プログラム(改良版)の構築；平成 27 年度；186 千円
7) 研究代表者：小林和成，岐阜大学 COC「地域志向学プロジェクト」（地域志向教育プロジェクト）：地域における看護活動の初期体験学習プログラム(完成版)の構築；平成 28 年度；200 千円
地域における看護活動の初期体験学習プログラム(完成版)の構築；平成 28 年度；200 千円
8) 研究代表者：田中健太郎；科学研究費助成事業若手研究 B；移動販売車が都市部高齢者の健康に与える影響；平成 28 年−29 年度；2,340 千円
9) 研究代表者：石原多佳子，研究分担者：纐纈朋弥，小林和成，池上由美子，田中健太郎，表志津子;科学研究費補助金基盤研究(C)：退院時における高齢者虐待ハイリスク家族のリスクアセスメント尺度の開発；平成 29 年度~31 年度；3,640 千円(780：1040：1820 千円)
10) 研究代表者：竹下美恵子，研究分担者：松波美紀，小林和成；看護学科企画 看護職輝き輝き(イキイキ)プログラム：岐阜大学 活性化経費(地域連携)；平成 29 年度；150 千円

2）受託研究
1) 研究代表者：小林和成，後期高齢者医療制度事業費補助金(厚生労働省)，岐阜県後期高齢者医療広域連合；後期高齢者における保健事業の在り方、対象者の選定に関する研究；平成 28 年度；150 千円

3）共同研究
なし

5. 発明・特許出願状況
なし

6. 学会活動
なし

2）学会開催
なし

3）学術雑誌
なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長
纐纈朋弥：
1) 山形県村山保健所管内研修会講師(平成 28 年)

8. 学術賞等の受賞状況
1) 第 75 回日本公衆衛生学会総会(学会ポスター賞受賞)：共同研究：辻晶代，榊原久孝，小林和成，西田友子，野崎加世子：同一ステーションに所属する訪問看護師間における利用者情報の共有に関する研究，大阪，平成 28 年
2) 第 23 回日本アルコール・アディクション医学会優秀論文賞：三好美浩，勝野眞吾，和田　清：全国高校生における薬物乱用と関連する共通のライフスタイルー2004 年, 2006 年, 2009 年 JSPAD 調査の結合サンプルからの発見ー，平成 29 年 9 月 8 日

9. 社会活動

石原多佳子：

1） 滋賀県米原市地域包括支援センター運営協議会委員(平成 27 年度)
2） 滋賀県米原市高齢者虐待防止ネットワーク会議委員(平成 27 年度)
3） 岐阜県立陽光園経営委員(平成 27 年度)
4） 岐阜県看護協会訪問看護支援部会委員(平成 27 年度)
5） 滋賀県米原市高齢者・障害者虐待防止ネットワーク会議委員(平成 28 年度)
6） 岐阜県立陽光園経営委員(平成 28 年度)
7） 岐阜市社会福祉行儀会主催「岐阜市ふれあい福祉センター相談セミナー」にて講演(2016.8.29)
8） 滋賀県米原市高齢者・障害者虐待防止ネットワーク会議委員(平成 29 年度)
9） 岐阜県立陽光園経営委員(平成 29 年度)

小林和成：

1） 岐阜県山県市健康山県 21 推進委員(副委員長)(平成 29 年度)
2） 岐阜市避難行動要支援者支援協議会委員（平成 29 年度)
3） 岐阜市レクリエーション協会理事(平成 29 年度)
4） 岐阜県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員（平成 29 年度)
5） 有限会社 耕グループ実践研究アドバイザー(平成 28 年度)
6） 清流の国ぎふ 春のレクリエーションフェスティバル 2016 実行委員(平成 28 年度)
7） 第 70 回全国レクリエーション大会 in 岐阜ミナレクキャラバン隊員(平成 28 年度)
8） 岐阜県後期高齢者医療広域連合運営懇話会委員（平成 28-29 年度)
9） 平成 26 年度 地域支援事業・介護予防事業(二次予防事業)に係わる通所型介護予防事業「元気アップ・スクール」報告会講師, 群馬県草津町, 平成 27 年 1 月.
10） 平成 27 年度 精神訪問看護算定要件研修講師, 一般財団法人 岐阜県訪問看護ステーション連絡協議会, 平成 27 年 10 月.
11） 第 7 回くわのみ実践研究発表会講師・座長, 有限会社くわのみ, 平成 27 年 11 月 1 日.
12） 平成 27 年度 地域支援事業・介護予防事業(二次予防事業)に係わる通所型介護予防事業「元気アップ・スクール」報告会講師, 群馬県草津町, 平成 28 年 1 月 22 日.
13） 平成 28 年度 防災タウンミーティング講師, 岐阜県中濃県事務所, 平成 28 年 8 月 19 日.
14） 第 8 回くわのみ実践研究中間発表会講師、座長, 有限会社くわのみ, 平成 28 年 9 月 8 日.
15） 第 9 回くわのみ実践研究発表会座長, 有限会社くわのみ, 平成 28 年 11 月 6 日.
16） 平成 28 年度 関市介護支援専門員研修会講師, 岐阜県関市, 平成 28 年 12 月 15 日.
17） 平成 28 年度 地域支援事業・介護予防事業(二次予防事業)に係わる通所型介護予防事業「元気アップ・スクール」報告会講師, 群馬県草津町, 平成 29 年 1 月 31 日.
18） 平成 28 年度「元気アップ教室(岐阜県中津川市)」における低栄養・重症化予防事業報告会講師, 岐阜県後期高齢者医療広域連合, 岐阜県中津川市, 平成 29 年 2 月.
19） 平成 28 年度 岐阜市災害要支援者支援協議会 学識経験者として出席, 岐阜県岐阜市, 平成 29 年 2 月.
20） 平成 29 年度 保健事業担当者研修会講師, 岐阜県国民健康保険団体連合会, 平成 29 年 8 月.
21） 平成 29 年度 岐阜県輪之内町防災士養成講座講師, 特定非営利法人防災支援ネットワーク, 岐阜県輪之内町, 平成 29 年 11 月.
22） 平成 29 年度 第 1 回 岐阜県後期高齢者医療広域連合運営懇話会 議長, 岐阜県後期高齢者医療広域連合, 平成 29 年 11 月.

纐纈朋弥：

1） 27 学会禁煙推進学術ネットワーク会議事務局(平成 27 年度)
2） 25 学会禁煙推進学術ネットワーク会議事務局(平成 28 年度)
3） 国立保健医療科学院たばこ対策の施策推進における企画・調整のための研修会講師(平成 29 年度)

田中健太郎

1） 神戸町すこやかプラン 21 策定委員(29 年度)

2） 金塚地域ケア会議運営委員(29 年度)

10. 報告書

1） 小林和成：初年次セミナー：地(知)の拠点整備事業「ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学」活動報告書 平成 25－26 年度：102－103(平成 28 年 3 月)
2） 山崎仁朗，石原多佳子，西本　裕，纐纈朋弥，小林和成，高木和美：「インターネットを介した見守りシステムによる高齢者生活支援と地域コミュニティ再生の可能性にかんする研究」活動報告書 26 年度岐阜大学 COC 地域志向プロジェクト　研究プロジェクト A：(平成 28 年 3 月)
3） 三好美浩：青少年の健康なライフスタイルに関する調査 2014―高校生調査―(平成 26 年度岐阜大学大学活性化経費(研究)研究代表者三好美浩)，報告書(速報)，岐阜大学(平成 27 年)
4） 三好美浩，勝野眞吾，西岡伸紀，若杉里実，和田 清：青少年の喫煙，飲酒，薬物乱用の実態と生活習慣に関する調査 2016－関東地域における 18－22 歳対象の標本調査－(平成 27－30 年度科学研究費補助金基盤研究(B)一般：青少年の危険ドラッグを含む薬物乱用の実態とライフスタイルに関するモニタリング研究)，報告書，岐阜大学(平成 28 年 9 月)
5） 小林和成：地域における看護活動の初期体験学習プログラム(改良版)の構築(初年次セミナー、公衆衛生看護学概論)：地(知)の拠点整備事業「ぎふ清流の国、地×知の拠点創生：地域にとけこむ大学」成果報告書：68－69(平成 28 年 8 月)
6） 林琢也，山崎仁朗，富樫幸一，高木和美，山口未花子，石原多佳子，西本裕，纐纈朋弥，小林和成：合併自治体の総合診断による地方創生プラン策定のための学際的・大学横断的研究－郡上市を中心として－：地(知)の拠点整備事業「ぎふ清流の国、地×知の拠点創生：地域にとけこむ大学」成果報告書：14－17(平成 28 年 8 月)
7） 田中健太郎，石原多佳子，纐纈朋弥，小林和成，玉置真理子，和田美江子：過疎地域における食品購入方法の違いと健康問題との関連分析：地(知)の拠点整備事業「ぎふ清流の国、地×知の拠点創生：地域にとけこむ大学」成果報告書：6－9(平成 28 年 8 月)
8） 小林和成：平成 28 年度 高齢者の低栄養防止・重症化予防等の推進事業報告書(平成 29 年 3 月)
9） 纐纈朋弥：環境ユニバーシティ岐阜大学環境報告書 2017：28(平成 29 年 9 月)
10） 小林和成：地域における看護活動の初期体験学習プログラムの実践：ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学　岐阜大学 COC「地域志向学プロジェクト」成果報告書：56－57(平成 29 年 12 月)

11. 報道

1） 小林和成：「研究室から　大学はいま」男性高齢者の介護予防の推進：岐阜新聞(2016 年 1 月 26 日)
2） 小林和成：避難計画、住民に解説：岐阜新聞(2016 年 8 月 31 日)

12. 自己評価

評価

地域看護分野では，研究活動においては各教員が研究代表者として科学研究費及び岐阜大学の地域志向教育プロジェクトの資金を獲得し積極的に取り組んでいる。論文も少しずつではあるが公表し成果を上げている。また教育においては平成 24 年度に保健師選択制が開始され,順調に保健師を輩出している。また学部生の臨地実習，卒業研究指導に加えて毎年大学院生を受け入れている。

学科運営にかかわる時間も増える中で，在宅看護学及び公衆衛生看護学における臨地実習施設数が多く学生指導や施設との調整など，教員が研究に費やす時間が制限されるが，教育研究に一定の成果を上げており、さらに社会活動にいても専門性を生かし幅広く活動しており評価できる。

現状の問題点及びその対応策

研究においては，欧文の論文の発表が少なく今後積極的に取り組んでいく必要がある。教育においては保健師選択制になり第 3 期生の卒業生を輩出し，実習内容やカリキュラムの構成，順序性等の課題が出てきた。さらに保健師選択をしなかった学生については公衆衛生関連する科目が減少したことにより看護基礎教育について課題を明確にする必要がある。また保健師選択希望者が毎年減少傾向であり，1 年時から時間外に地域における様々な体験の機会を設けるなど，教員の研究を通じて公衆衛生や保健活動

の魅力を広く発信し保健師を希望する学生の拡大を図ることが必要である。

今後の展望

教員各自が研究テーマをもって，積極的に研究に取り組むこと，加えて地域看護学分野としての共通した研究課題をもって，研究活動をさらに活発化したい。

さらに，他学部や他大学，さらに関係機関や地域住民を交えた，視野の広い研究活動を行い，地域の人々の真の豊かさや暮らしの質に還元できることを目指してゆく。

平成 24 年度入学生からの保健師選択制のもと，教育活動において，より専門性高めるため，公衆衛生看護学の教育内容等の見直しを図っていきたい。

（2）精神看護学分野

1. 研究の概要

精神科病院の多くが急性期医療中心に舵を切り，看護を取り巻く状況も大きく変化してきた。それに伴い，精神看護学の探究すべき課題も急速に拡大してきている。入院期間が確実に短縮してきている状況での看護の役割や機能，高齢化による身体疾患や認知症の増加のなかでの看護，また，うつ病や職場のメンタルヘルスの問題に加え，アディクションや発達障害への対応など精神看護学の新たな課題も浮き上がってきた。このような状況の中，当分野では臨地で起こる研究疑問を現場の看護師と共に探求してきた。

具体的な研究テーマとしては，精神科急性期の対象におけるアセスメントに関する内容や看護，生活上の困難を抱える様々な状況にある対象への看護，地域で生活する精神障害のリカバリーに関すること，夏山診療所における学生への教育に関する研究を行っている。

看護教育という点では，これらの研究が，学生の「人間を理解する能力の向上」や「対人関係の構築能力の向上」につながり，多様化する社会の中で，ケアの対象である対象の価値観や希望を理解し，尊重する姿勢につながることを意図している。

2. 名簿

教授：　奥村　太志　Hutoshi Okumura
准教授：　大平　幸子　Sachiko Ohira
助教：　田中　千絵　Chie Tanaka

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）
なし

総説（欧文）
なし

原著（和文）

1) 北浦里香，五十嵐由美子，寺島裕貴，杉浦浩子．新退院調整ツールを用いて退院調整を実施した体験からの看護師の気づき，日本看護学会論文集；慢性期看護　2015 年；45 号：152－155.
2) 井上今日子，小木曽仁美，奥村志保子，杉浦浩子．看護師の意識・知識・実施度から見た食事摂取時のポジショニングの体験学習の効果，日本看護学会論文集；慢性期看護　2015 年；45 号：199－202.
3) 加藤百合子，遠山圭子，星野庸子，杉浦浩子，佐々木美樹子．褥瘡発生予防に対する問題解決のためのフローチャート作成とその有用性，日本看護学会論文集；慢性期看護　2015 年；45 号：224－227.
4) 加藤幸恵，澤田樹穂，藤田清美，大平幸子，奥村太志．認知症病棟における行動制限最小化に向けて－看護師の意識調査から見えてきたもの－，日本看護学会論文集；精神看護　2015 年；45 号：3－6.
5) 大野明子，伊藤信子，渡邉美紀，林　真帆，杉浦浩子．スタッフの対応が認知症患者に与える影響－プロセスレコードの分析から－，日本看護学会論文集；精神看護　2015 年；45 号：107－110.
6) 杉浦浩子，玉井千晴，杉浦春雄．大学生の愛着スタイルの違いが恋愛依存傾向に及ぼす影響，健康レクリエーション研究　2015 年；11 巻：13－20.
7) 杉浦春雄，服部未花，杉浦浩子．現代の大学生におけるアサーションと対人ストレスとの関連性，健康レクリエーション研究　2015 年；11 巻：29－37.
8) 坪井正樹，大平幸子，奥村太志．危険予知トレーニングを用いた看護師による医療事故防止の取り組み，日本精神科看護学術集会誌　2015 年；58 巻：324－325.
9) 杉浦春雄，坂本太一，杉浦浩子．大学生のストレス反応の違いが認知的評価に及ぼす影響，岐阜薬科大学紀要　2015 年；64 号：56－59.
10) 渡邊晴菜，須藤真由，大平幸子，大橋麗子，奥村太志．ストレスケア病棟における気分障害の看護に関する考察－気分障害患者と看護師の満足度調査を通して－，日本精神科看護学術集会誌　2015 年；58 巻：114－118.
11) 成瀬道秋，武田俊，大平幸子，奥村太志．精神科閉鎖病棟における慢性期看護の現状と課題－受け持ち制看護の振り返りから－，日本精神科看護学術集会誌　2015 年；58 巻：209－213.
12) 臼田成之，奥村太志．精神障害者の地域移行を阻害する要因の検討－精神障害者保健福祉手帳と社会復帰施設設置数に着目して－，岐阜看護研究会誌　2016 年；8 号：65－76.

13) 大平幸子, 岩間亨, 温水理佳, 大橋麗子. 奥穂高診療活動に参加した学生の参加前後の社会的自己制御, 登山医学　2016 年；36 巻 1 号：166－172.
14) 温水理佳, 岩間亨, 大橋麗子, 大平幸子. 岐阜大学奥穂高岳夏山診療所での診療活動に参加した医学部生の実態, 登山医学　2016 年；36 巻 1 号：153－159.
15) 宮地和美, 奥谷知咲, 大平幸子, 奥村太志. 精神障がい者の退院支援に取り組む看護師の意識変化－CP・PSW による退院支援学習会を実施して－, 日本看護学会論文集；精神看護　2017 年；47 号：.31－34.
16) 澤田悠介, 市川昌代, 山内博文, 小椋みづえ, 大平幸子, 奥村太志. 精神疾患患者の退院に消極的な家族への支援－精神科救急病棟看護師への調査から見えたもの－, 日本精神科看護学術集会誌　2017 年；59 巻 2 号：138－142.
17) 吉田香, 笹木原実可, 大平幸子, 奥村太志. 退院に不安がある精神科長期入院中の統合失調症患者への働きかけ, 日本精神科看護学術集会誌　2017 年；59 巻 2 号：228－232.
18) 田中千絵, 奥村太志, 大平幸子. 統合失調症患者が行うピアサポートにおける他者との関りの体験, 日本ヒューマンヘルスケア学会誌　2017 年；2 巻 1 号：93－103.
19) 大橋麗子, 温水理佳, 大平幸子, 岩間亨. 奥穂高夏山診療所における医学部学生の経験－山岳診療活動から医学部学生は何を学ぶのか－, 登山医学　2017 年；37 巻 1 号：87－92.
20) 温水理佳, 岩間亨, 大橋麗子, 大平幸子. 岐阜大学奥穂高岳夏山診療所での診療活動に参加した医学部生の実態　第 2 報, 登山医学　2017 年；37 巻 1 号：156－162.
21) 田中千絵, 矢野優, 杉浦浩子. 当事者参加型授業の精神看護学実習における学びの活用状況, 日本看護学会論文集；精神看護　2017 年；47 号：151－154.
22) 矢野優, 田中千絵, 杉浦浩子. 精神障がいピアサポーターが当事者参加型授業に参加する意義, 日本看護学会論文集；精神看護　2017 年；47 号：15－18.

原著（欧文）
なし

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

なし

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

大平幸子：
1) 日本登山医学会(平成 29 年度～)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

大平幸子：
1) 第 34 回日本登山医学会(平成 27 年 5 月, 香川, 「山岳診療所公開討論」座長)
2) 第 48 回日本看護学会急性期看護学術集会(平成 29 年 9 月, 岐阜, 「在宅に役立つ漢方」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

奥村太志, 大平幸子：
1) 第 45 回日本看護学会　精神看護　優秀論文賞(平成 27 年度)

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

大平幸子：

1） 岐阜新聞コラム「研究室から大学はいま」(平成 29 年 2 月 28 日朝刊)

12. 自己評価

評価

教員の入れ替わりや職位の変化もあり，この期間は分野内での教育や研究の基盤作りをしてきた。教育では，看護学生に「患者－看護師関係を基盤に対象の個別性を尊重し，自律性の回復に向けての支援」を学べるように，演習や実習を工夫し展開してきた。研究については，臨床現場における看護師との共同研究を継続する一方で，新たに精神障害者に対する地域生活支援に向けて研究の範囲を拡げてきた。また，精神看護学は 3 名の構成員でありながら学科運営に関連する諸活動を精力的に行ってきた。社会貢献については，岐阜県看護協会が企画した研修会や岐阜県看護職員定着事業における出前授業を複数回担当し一定の成果を上げていると自己評価する。

現状の問題点及びその対応策

教員数の削減のなか，各種委員会の統合がなされ，教員個々が担う役割が増えてきている。その一方で，大学の方針に沿って，社会貢献活動やその他教育研究活動が求められており，研究活動や論文執筆の時間確保が難しい。

今後はこれまで以上に効率性と研究の質を高めるために，分野全体としての研究課題を持ち，研究体制づくりを図りたい。

今後の展望

・平成 31 年度からのカリキュラムの見直しを進め，精神看護学分野の教育内容や方法，順序性の見直しを行い，教育の質の向上に努める。

・今後，精神保健医療福祉の改革に伴い，それに合った教育や研究を行う必要がある。